

## 令和6年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和6年7月18日(木) 午前10時00分開会

2 開催場所 郷土博物館 研修室

3 出席委員

委員長	伊藤 誠	委員	加藤 正人
副委員長	友田 賢司	委員	近藤 敏
委員	前沢 幸雄	委員	唐木 義昭
委員	山本 博		
委員	今井 恵子		

(欠席委員)

委員	木曾野 真紀	委員	地引 尚幸
----	--------	----	-------

4 出席職員

教育長	鵜田 道雄	主幹	稲葉 理恵
生涯学習課長	重田 克己	主幹	桐村 久美子
顧問	稲木 章宏	副主査	水流 拓馬
館長	西原 崇浩		

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 報告

(1) 令和5年度郷土博物館事業報告について

(2) その他

## 7 議題

(1) 令和5年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について

(2) 令和6年度郷土博物館の事業計画について

## 8 議事

**伊藤委員長** では、報告(1) 令和5年度郷土博物館事業報告について、事務局から説明をお願いいたします。

**事務局** 資料に基づき説明

**伊藤委員長** 報告(1) 令和5年度郷土博物館事業報告について、何か質問ありませんか。

**伊藤委員長** 特にないようですので、議題(1) 令和5年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について、事務局から説明をお願いいたします。

**事務局** 資料に基づき説明

**伊藤委員長** 議題(1) 令和5年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について、何か質問ありませんか。

**唐木委員** 31ページに「袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られているとあるのですがその関連で、個人的ですけど、3月に茂原市の郷土資料館の企画展があつて見に行きました。やっぱり当館と同じように茂原公園の中に資料館があるので、同じ環境です。ちょうど公園の桜まつりの時期で、意図してやったのかどうかわかりませんが、一つの施設の中で桜まつりと企画展が開催される、そういうタイミングじゃないかなと思いました。公園まつりなどは皆さん来られます。その時に博物館で何かイベントをやっていたら、行ってみようかという人の流れはできるのではないかと思います。そういう意味では、そういったところに合わせて企画をするのも、一つのアイデアではないかなと思います。5月の連休ですが公園との打ち合わせなどはしているのでしょうか。打合せをしていれば、その中でその連携ができるのではないかという気がするのですが。もう一つはですね、市民と一体となった調査ですが、地域の人たちによる文化財の掘り起こしということで、これも他の博物館で申し訳ないのですが、市原歴史博物館ではフィールドミュージアムという形で地域の歴史に詳しい人たちが計画も立てて参加者も集めてくださったりしています。そういう、散策

会を行うような場所は袖ヶ浦にはないのでしょうか。誰かそのような人材はいないのでしょうか。6月15日にこちらの企画展関連講演会がありまして、私も参加したのですが、参加者が60人近くいましたね。そういうことも踏まえると、身近な市内の文化財に興味のある人はいるのではないのでしょうか。以前に参加したのですが、横田郷を散策する講座があったと思うのですが、この他にもあれば是非、地域を掘り起こして散策会をやっていたらいいなと思います。できれば座学ではなくて現地に行くというのが、大事なことなのではないかと思います。それで、この企画展関連講演会で気がついたんですけど、やりとりを見ていると当館にもかなり協力者の方がいらっしゃるようになりました。他にも博物館に対して協力する方がいらっしゃるのではないかと思います。

**伊藤委員長** いろいろ公園と関わる事業も実施できましたし、根形交流センターとの活動も唐木委員が以前からお話しています。今の件、よろしいでしょうか。

**事務局** まず公園との連携の件ですが、博物館といたしましては、公園のイベントと重なると駐車場等の問題もありますので、積極的に合わせていくのがいいかどうかは検討しなければならないのですが、確かに同時に実施することでの相乗効果というものは当然あると思います。現在のところは、お互いに情報提供し合って、一緒に実施しようといった話し合いはしていません。けれど、今後はそのあたりの情報交換をもう少し密にしていけたら、もっといい活動ができるのかなということは考えております。

それから、フィールドミュージアムとか散策会の件ですが、先日、散策会ではないですけど、企画展関連講座でバスツアーを開催いたしました。そちらも大変好評で、バスの駐車場の問題と小型バスしか通れない道があったのでやむを得なかったのですが、小型バスの定員はすぐに満席になってしまいました。確かに、地域のことに対しての皆様的好奇心というか、知りたい意欲というのはすごく実地で感じられましたので、散策会も今後、どんどん考えていきたいと思います。おっしゃっていただいたように、横田郷は今まで何回か散策会をやったことがありますけれど、やるたびに人数は集まりますし、山野貝塚のボランティアの方たちもいらっしゃるの、散策会で現地にご案内するというのはやっていると思うのですが、そこで博物館の方の情報も一緒にボランティアの方たちに提供することで、行く途中にある、いろいろな石造物とか、その他の歴史的な遺物なども合わせてお話をすることもできるのではないかと考えておりますので、山野貝塚周辺は山野貝塚だけでなく飽富神社もありますし、全体が遺跡でもあります。古墳もありますので、そのあたりも散策会をする場合、とても良いフィールドになるかと思っております。他にも、蔵波城とか、

お城の関係などもよく、リクエストされますので、また散策会のメニューとして整えていきたいと考えているところです。

それから、加藤委員が中心になって活動している市民学芸員郷土を学ぶ会にも公民館の方から散策会の講師として依頼があり、対応しております。博物館が主催して郷土を学ぶ会に講師をしていただくというのも今後できるのではないかと考えているところです。以上です。

**西原館長** 公園との連携についてですけれど、昨年度は菖蒲まつりと同じ日だったんですが、今年も変わりません。以前は博物館の方が実はいつも1週目の土日にやっていたんですが、広報紙が月に1回になってしまった関係で、1週目だと広報紙に掲載してからの期間が短いので2週目にずらしまして、2週目にこれまで公園が菖蒲まつりをやってきましたので、そこにこちらが寄っていくという形になりました。元々の考え方としては公園とイベントが重なると駐車場がなくなってしまうので、なるべくかぶらないようにしようという意識を持っていました。

ただ今年もやっていてそうだったんですけれど、やることによってやっぱり人の動きというのは多少なりともありますので、これはなるべく菖蒲時期にイベントとして、また連携しながらやっていこうかなと思っています。実際にやる時にあたっては、博物館と公園とで打ち合わせはしております。また、駐車場の問題もありますので向こうは1日、こっちは2日間やるというようにちょっと違いはあるんですけれども、なるべく人の交流ができるかなと思っていたんですけれど、意外と向こうから人がこっちに流れてこなかったんです。ですので、今後は公園の中に看板を置かせてもらうとか、うまく活用していこうと思っています。

先ほど加藤委員たちの活動について話がありましたが、令和元年度、市民学芸員郷土を学ぶ会が石造文化財等を悉皆調査的に歩いて調査しております。その集成したものをDVDにまとめてあるんですが、まだ刊行されていないので、それを基に冊子を作成して、市民の方が誰でも地域の文化財を見ていただけるようなものを提供したいと思っています。これはまた加藤委員に色々お世話にならないといけないかなと思っています。

**伊藤委員長** QRコードの整備なんて今回が初めてですよ。これから増やしていくともっといいですね。

**西原館長** 105首・105個の歌碑があるんですけれど、それに対して今回まだ20首しか行っておりませんので、まだまだ先が長いんですけれども、段階的に進めていってですね、今、歌碑だけだと何を書いているか、歌が何の意味を持っているのか

わかりづらいので、できるだけ現代語訳に近い形で整備していきたいと思っております。

**伊藤委員長** その他に何か質問ありますか。

**唐木委員** 山野貝塚についてですが、ここからボランティアに案内してもらう散策会に参加したのですが、これは〇〇古墳とか説明があるんですけど、参加した人は説明があるからわかるけれども、一般の人たちはわかりません。できればそこに、〇〇古墳というだけでもいいから看板がほしい。その看板設置は博物館がやるのか、生涯学習課がやるのかわかりませんが、よその土地なのか難しいのかもわかりませんが、これから山野貝塚が立ち上がってきて、講座にも参加するようになって、一般の人たちにもわかるようにしてやった方がいいと思うのですが。そのような看板設置はできるんですか。

**西原館長** 看板についてはですね。民地だった場合でも建てられないことはないんですね。その代わりは土地を借りるのか買うのかとかいろいろ問題がありますので、ちょっとルート上の看板については、また生涯学習課もいろいろ考えているとは思いますが、結構難しいかもしれないです。ただ、道案内として矢印をつけたりというのは今検討している最中です。整備の関係でそういったところも整えていかなきゃいけないので、検討はしております。やはり一般の方が何があるかわからないというのはその通りなので、それについては、できるだけ紙等の配布がしたいと思っております。マップ等を渡して、できるだけわかるようにしたいということでございます。

**加藤委員** それに関連してですけど、市内の文化財のマップを作ったわけなんですけれども、これは一つには市民に地域の宝物を再認識してもらいたいというのが一つと、それから、自分らの地域のその文化財を自分らで守ってほしいというのが目標・目的です。それから、外部にはこれを一般的にPRして、観光資源として活用してもらいたい。こういう2つの大きな目的で市内全域作りました。これを、さらにこれを推進するためにはその地域にどうPRしていくか？例えばA地区に、これを地域の人に認識させるにはどうしたらいいのか。私のアイディアとしては、地域の公民館等を使って、そこでスライドを見せたり、地図を渡したり、そういうPR活動をして、地域のはそれで固めていって、かつ市外については、市の観光課等で全面的にPRするという事です。

ただ、先ほどおっしゃったように、確かに私どもも歩いてこれを探すのは大変でした。大変だというのは何も無い場合なんです。看板もない。それから標識も何も無い。どこに何があるのかわからない。そのために地図を作って、地図にインプットしました。地図に落とし込んで。この地図を見ると細かい道

路は書いてありますから、大幅に変わってなければわかるわけです。だから私としては相当な効果があるんだというふうに思っております。まあ、そういう風な活用方法です。ぜひ進めていってもらいたい。これは博物館だけじゃなくて、それが市の宝、PRとしてもそれから地域のつながりということに関しても、非常に重要なことだと思います。その一つとして、地域の文化財というのを私どもは選んだわけです。補足させてもらいました。

**伊藤委員長** 第2回の報告案件としてください。我々も見たいですよ。

**加藤委員** 膨大な量ですよ。何10ページもあります。DVDは1地域、短縮すれば30分くらいになるかもしれないですけど。だいたい1地域1時間程度かかります。

この令和5年度の運営に関する点検の評価なんですけど、評価方法は非常によろしいんじゃないかなと思っています。今までどちらかというと感覚的な評価をしてきたのを数値化して、それでやっていったというのは非常にいいと思います。ただし、この評価をどういう風に誰がしたのか、まだ内部評価だけのものなのか、それとも関係する部署、例えば教育委員会、もしくは生涯学習課とかにある担当、博物館をできるだけ知ってる人間も入れての評価だとかですね。ただ内部評価だけだと甘い面が出てくるんじゃないのかなという気はします。確かに教育委員会にしろ、生涯学習担当にしろ、どれだけ博物館の内容を知っているのかなとは思いますが、非常に難しいと思いますけども。できれば外部からちょっと入れてやった方がよろしいんじゃないのかなと思います。

**西原館長** 評価のことですけども、基本的に内部評価を行って、この次のステップとしてはこの協議会の中で承認いただいた後に、教育委員会の方に報告させていただいております。その後は外部に公表という手順をとっております。なぜ、内部評価だけなのかということですが、こちら決まり事ではないのですが、17ページの方に今回の提案理由が書いてありますが、博物館の設置及び運営上の望ましい基準というのがあって、そちらの方に内部評価という記載もございます。それに基づいて内部評価をやらせていただいて、ただ当館の場合は、この事務局の方で行った内部評価について、外部的な目で見えていただくというようなスタンスでやっておりますので、こちらとしては内部評価ですけども、外部の博物館協議会委員に評価を間接的に頂いているという認識ではあります。

**伊藤委員長** その他何かありますか。

**近藤委員** 20ページの先ほどの中で、(7) 博物館の個性を生かし、能力を伸ばすの所で、3番の他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会というところが

あって、目標値1回・実績値1回ということですが、他機関が主催する研究会等というのはどういうものを指すでしょうか。

#### 事務局

具体的には他のいろいろな研究会、例えば日本考古学協会ですとか、そんなに大きなところではなくてもいいですけど、私たちが事業として博物館の中で行うもの以外で研究成果を発表した回数になります。

#### 近藤委員

全国的な組織だと、考古学なら考古学協会とか考古学会等々あるんですけど私も学会に所属していて、退職してからまだ元の職場に残っている学芸員と交流もあります。どこも学会も発表する人を欲しがっていて、その幹部を知っていたりするので、この人だったらできると紹介でお話したりします。日本文化財科学会があって、それは推薦者がいないと会員にもなれないところです。私は40年近く入っていて、文化庁の職員や大学の先生も仲間にいます。その人たちは、学生時代から交流があるので親しい関係ではあります。それで一昨年くらいに、若い職員が入会したいということで、紹介しました。ちょっと難しいなと思ったら、連名で発表してできるだけ機会を促して慣れさせるということもして、発表の機会を与えたこともあります。また、千葉市の中堅学芸員さんにも、学会に入ってもらったりしています。

実際、他機関というと、全国区だと県外に出たりしますが、県内の小さな研究会などもあって、そういう所で発表したものを市原市で勤めている職員が袖ヶ浦市史研究に発表させて頂いたりしているという交流もあります。今回は博物館協議会の評価ですけど、学芸員一人一人、市の職員の評価とはいろいろ齟齬も出てくると思うのです。市外とか県内の活躍というのは、市職員評価の中で評価されにくいということもあります。けれども、博物館でわざわざこういうことを謳っているのであれば、こういう部分でも評価してあげて、なおかつ自分で得意な分野があるのであれば、得意分野を伸ばしてあげれば、一生それはできる活躍の場があるなら、できればそういう機会を与えてあげて、研究に楽しさというか、研究していることが認知されるということは大事です。

船橋市の飛ノ台の学芸員が文化財科学会で発表したものが、職場の企画展になり、その成果をもとにした話が、東京新聞に取り上げられたりしました。そのようにしっかり評価してあげる、そういうところでの外部評価というのは大事なのではないか。昨年、外来生物について企画展がありました。郷土博物館ですから広い分野から歴史以外でもテーマにできる。自然系でも学会はたくさんありますので、いくらでも研究の道はある。研究ばかりではだめで、マネジメントも学芸員はしなければいけないのですが、そういうところを後押ししてあげられるような環境を作ってあげるといことは、必要じゃないかなと思っていました。

## 事務局

ありがとうございます。こちらをあるべき姿と設定したのは、やはり学芸員はまず研究者であるという意識が大事かなというのがあって、それを常に忘れて欲しくないので、自分の研究テーマというのを持って、調査研究を積み重ねて発表できる機会があったらしていくべきだという考えのもとに設定しました。今回の評価では、必ずしも毎年機会が得られるとは限らないので、他の公民館等で話したのもカウントに入れていきますけれど、やはりそういった専門研究者から評価を受けられるような研究会等で、機会があればどんどん発表すべきだと思いますし、去年も博物館研究にちょっとした原稿ですが、書かせてもらう機会があって、そのようなものでも見てくれる人がいると、載ってたねなどと言ってくださいますし、またそれで他館に借用等でお伺いした時等でも、いろいろなところで名前を見ていただいていると、あの企画展やっていた人ですね等と言っていただいたりします。そういうことは、博物館の学芸員にとって有利にしかならないので、とても大事なことです。市の職員であるから、まずは学芸員である前に市の職員であるという考えもありますが、そればかりに偏ってしまうと、やはり学芸員として博物館として魅力がなくなってしまうと思いますので、先ほど近藤委員がおっしゃってくださったことは大変にありがたいことだと思います。

## 近藤委員

いわゆる教育者として、専門的な研究も去ることながら、教育的なメソッドというのは非常に必要で、先生方はそういうことをずっとやられているんですね。博物館の中でもそういう教育的なメソッドを発表する機会が、どんどん増えています。だからいわゆる専門的なものでなくて、活動の中でどうやって市民と関わっていくかとか、博物館のマネジメント等も研究課題になってきていて、地域おこし等も含めて研究会に参加して行くことは本当に必要だと思っています。考古学なり、自然科学なり、動物なり、専門的なものがあるって、それを市民に対してどうやって発信していくかという、ニーズとか教育方法とか、これから本当に真価が問われるけれど、その辺の研究はあまりできていなかったと思いますが、学校の先生の知恵などもお借りして進めていけるとと思います。

## 鶴田教育長

学校が地域の博物館とか公民館とか図書館とかをうまく使っていくというのは重要だと思います。30年以上前から博学連携の事業に取り組ませていただけてきました。旧進藤家住宅を使って3年生が昔の暮らしの授業をやったり、6年生が社会科の授業で博物館を見学したりという博学連携の事業を袖ケ浦は30年前から、一緒になってやっています。また、図書館も袖ケ浦は発達していて、学校と組んで事業を行っており、図書館の資料を博物館も含めて送れる物流のシステムを作っています。結構、袖ケ浦は子供たちが地域のその文化について調べ学習を行っていて、全国のトップの文部科学大臣賞を取るような作品もたくさん輩出しているわけです。今までそういう財産はいっぱいあ

りますので、今後、地域にどう介入していくかということも考えて、例えば博物館で、子どもたちが袖ヶ浦のことについて調べた、その作品を展示する会をやるとか、市民と一緒に協働で研究してもらおうとか、やっぱそういうプロダクトもできるのではないかなと思っております。ただ、学校には教育課程がありますので、その中でバランスを取りながら地域学を学ぶというのは、これからのことですが、私たちは大事だと思います。

**加藤委員** 確かに学校の教育の中でも難しい面があるかと。いろんな時間的な制約がありますので、またその先生方にも負担がかかっている中で、難しさはあると思うんですが、やはり子どもたち、特に小学校の時からその地域をよく知るといことは非常に大切であるし、市の発展というのはやはり小さいうちから市内にどれだけ、密着していくのかという、子どもたちがそういう様な意識を大きくなって持っていくということは非常に大切だと思うんですね。それで、その中で、ちょっと欠けていると思うのは、子どもたちだけにそれを体験させるのではなくて、その前に先生自体の教育、地域学というか、先生方も大変だと思いますけども、そういう様な時間を取ってもらって、まず先生方に地域の認識をしてもらうというのも大事なのではないかという気がします。

**前沢委員** 袖ヶ浦の子どもたちは、博物館との連携は小学校の時から盛んに行っていて、他の近隣市と比べるとはるかに恵まれている場所だなと考えています。それ以外、先生方の研修会については、定期的には行われてないですけども、私も社会科なのですが社会科教員の研究会がありまして、そちらの方で博物館を活用して、横田郷などの地域の散策等の研修を行っております。そこは社会科の先生に限ってということになりますけども、今後、小学校の先生が、社会科部会の先生を中心に、地域を学ぶ学習においても連携しながらやるのも一ついいかなと思います。この後も夏休みになりますので、夏休みはそういった研修も教室の中だけじゃなくて外に出るのもいいかなと思います。

**伊藤委員長** 旧進藤家住宅で、よく野良着体験などやっていますが、非常に評判がいいですよ。子どもたちにそういったものをぜひいろいろ取り入れてもらえればいいじゃないですか。

**友田委員** 企画展の人数を6,500人に変えているのは、これは、コロナ関係で少なくしていたのを、以前の数字に戻したのですか。

**事務局** 以前に戻したということではなく、令和5年度の実績が、資料の12ページの真ん中に特別展・企画展とあります。こちらの4年度からの継続事例を除きまして、企画展I「井出先生の写真館」こちらが開催期間中の観覧車数が8,198

人。企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」が6,476人ということで、どちらも6,000人以上、目標値の5,000人は大きく上回ります。またこれを5,000人という目標にするのも現実的ではないというところで6,500人と設定しております。

**友田委員** 企画展の開催期間を見ると、「辻元大雲展」が約2週間、企画展Ⅰが3か月、企画展Ⅱが2か月半程度とそれぞれ異なっています。一律で同じ人数にして大丈夫ですか。期間によって人数が変わると思うので、達しないと×という話になると思いますが。

**事務局** あくまで目標ですから、低すぎても良くないです。5,000についてはおそらくもう達成するであろうということで考えたわけです。また、だいたい企画展の期間は2か月半ぐらいです。今年度は企画展ⅠもⅡもその期間でやっております。

**伊藤委員長** それでは、議題（2）令和6年度郷土博物館の事業計画について

**事務局** 資料に基づき説明

**西原館長** 補足ですが、のぞみ野の自治会から依頼がありまして、のぞみ野団地のお祭りに博物館に出てもらえないかというご依頼がありました。地域連携につながり、博物館の名前を売りたいというところもありますので、参加しようかなど思っているのですが、ちょっと急な話ですので、なかなか準備が整いませんので、ちょっと暑いですが、火起こし体験のブースを作って、そこで子どもたちに火起こしをしてもらおうかなど思っております。9月の22日です。3連休の中日です。

**伊藤委員長** 説明が終わりましたので、何か確認して。

**唐木委員** 考古学講座が、9月から1月までずっと予定入っていますが、これは対象者にはどのような募集をしたのですか。

**西原館長** 対象は、高校生以上一般の方です。広報で募集しています。

**唐木委員** 袖ヶ浦学とは違うのですか。

**西原館長** そうですね。ちょっと専門的な内容になっているので、袖ヶ浦にこだわっているわけではありません。今年度はちょっと袖ヶ浦寄りになってきているところもありますけれども、ただ全般的には専門的ですが、専門的なんだけど

わかりやすい、一般の方でもわかるような内容として、令和元年度からこの講座を実施しています。

**伊藤委員長** 何かありますか

**伊藤委員長** よろしいですか。では、その他で何かありますか。

**事務局** ありません。

**伊藤委員長** それでは、閉会とします。  
みなさん、貴重なご意見、ありがとうございました。

**事務局** 慎重審議ありがとうございました。令和6年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会、これにて閉会といたします。本日はありがとうございました。

閉会

# 令和6年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

## 会議次第

日 時 令和6年7月18日(木)  
午前10時から11時40分  
場 所 郷土博物館 研修室

### 1 開 会

### 2 委員長あいさつ

### 3 教育長あいさつ

### 4 報 告

(1) 令和5年度郷土博物館事業報告について(10分)【質疑10分】・・・・・・・・ 1

(2) その他

### 5 議 題

(1) 令和5年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について(25分)・・・・ 17  
【質疑30分】

(2) 令和6年度郷土博物館の事業計画について(5分)【質疑10分】・・・・・・・・ 33

(3) その他

### 6 閉 会

# 報告（１）令和５年度郷土博物館事業報告について

## １ 令和５年度の経営方針及び重点施策

### （１）経営方針

郷土博物館では、第３期教育ビジョンの基本目標である「未来を創る 心豊かで いきいきとした人づくり」の実現に向け、生涯学習活動の機会や場を提供し、地域の人づくりや絆づくりに貢献するとともに、郷土の歴史と文化を学び後世に伝える活動を推進します。

そのため、郷土博物館は、「袖ヶ浦市郷土博物館の使命」に示す４つの項目を重点施策とし、国史跡・山野貝塚をはじめ、市内の文化遺産（地域資料）についての調査研究活動及び収集・保管・展示を行い、市の歴史を探ります。

また、市民学芸員・友の会等との協働により教育普及事業・博学連携事業のさらなる充実を図り、市民や学校への学習支援を行い、市民活動の場、知的交流の場としての利用を促進するとともに、その担い手である市民学芸員・友の会員をはじめとした人材の育成にも力を入れて参ります。

引き続き、多くの来館者が安心・安全に利用していただけるように、施設を適切に管理します。

### （２）重点施策

#### ①地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資料の収集・保存・管理に努め、市民の共有財産として次世代に継承します。特に、上総掘りの技術については、記録映像の制作や講演会を開催するなど、技術の伝承と保存に努めます。

また、地域資料の調査研究の成果を各事業の開催により市民と共有します。

さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広くPRし博物館利用の促進を図ります。

#### ア 調査研究

- ・ 袖ヶ浦市の縄文時代・弥生時代に関する調査
- ・ 袖ヶ浦市内の生物に関する調査
- ・ 中世荘園に関する調査
- ・ 旧石器時代に関する調査
- ・ 古代の植物利用に関する調査 等

#### イ 地域資料管理活用事業の展開

- ・ 地域資料の調査収集及び活用
- ・ 収蔵保管資料の適正な管理
- ・ 収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業組合資料）
- ・ ホームページによる情報発信
- ・ 古文書等表題データベース作成
- ・ 埋蔵文化財写真デジタル化

- ・『袖ヶ浦市史研究』第22号刊行準備（執筆要項整備・原稿募集等）

#### ウ 民俗文化財伝承・活用事業 **令和5年度重点取組**

- ・上総掘り技術の記録映像制作
- ・上総掘り講演会の開催
- ・上総掘り伝承用印刷物刊行

### ②市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民の学習や知的交流の場として、市民の多様なニーズを考慮しながら、企画展や各種イベントを計画的に開催します。また、市民が自らの意志で参画できる事業を企画し、地域の学習力や地域文化の向上に貢献します。また、非常時における講座・イベントのあり方や企画展等への来館者対応について、他館の事例等を参考により安全で効果的な方法を模索し、実践します。

博学連携事業は小学校の学習指導要領の改訂も行われ、更なる充実を図るため、身近な学びの場として子どもたちが日常的に活用できるように博物館活動の周知に努めます。

さらに、博物館活動の担い手である市民学芸員や友の会の活動を支援するとともに、新たな人材の発掘と育成を図り、市民と共に歩む博物館活動の充実に努めます。また、市内外の各種団体との連携により地域の魅力発信に努め、地域文化の向上に貢献します。

#### ア 展示更新推進事業の展開

- ・企画展2回
  - i 企画展Ⅰ「井出先生の写真館ーキミ、シニタマフコトナカレー」
  - ii 企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」
- ・常設展示の部分更新
- ・旧進藤家住宅での各種展示
- ・ロビー展示・ミニ企画展等の開催
- ・万葉植物園の活用（市民学芸員協働実施） **令和5年度重点取組**

#### イ 教育普及事業の推進

- ・考古学専門講座の開催
- ・博物館講座「袖ヶ浦学」の開催
- ・友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会等諸団体との協働による事業の開催
- ・夏の子ども向けイベントの開催

#### ウ 博学連携事業の拡充

- ・校外学習支援(市内・市外)
- ・資料の貸出
- ・学習相談
- ・教員対象研修の実施
- ・学校向けワークシートの作成・更新・活用
- ・アウトリーチ活動(出前講座・出前授業・現場出張)

- ・山野貝塚体験型プログラムの開発
- ・学校図書館との連携促進（物流システムの活用）

#### エ みんなにやさしい事業の推進

- ・高齢者施設との連携（博福連携：博物館と福祉施設等の連携）
- ・多言語対応の推進

#### オ ボランティアの養成と支援

- ・市民学芸員主催イベント（子どもの日イベントなど）への支援
- ・市民学芸員フォローアップ研修の実施と市民学芸員の生涯学習サポート
- ・市民学芸員養成講座の実施と新規市民学芸員の育成 **令和5年度重点取組**
- ・地域史掘り起こし研究への支援
- ・グループ活動の支援
- ・館蔵資料整理

#### カ 上総掘り技術伝承研究会活動の支援

- ・活動場所の確保
- ・資材調達
- ・活動PR
- ・補助金による活動援助（動画制作ほか）

#### キ 郷土博物館友の会活動の支援

- ・『友の会だより 53・54号』の発行
- ・友の会各グループ活動（凧の会・何でも有り会・仏像を学ぶ会・土器作りの会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画葉月の会）への支援
- ・友の会グループ主催イベント（新春凧揚げ会、盆栽展示など）への支援

### ③市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。

市民の快適な学習環境を整えるために管理施設について定期的に点検を実施し、状況を把握します。また、不具合が生じた箇所については、修繕等を行い、施設を維持管理し、安全な学習環境を整えます。

#### 施設管理事業

- ・安全点検の実施（月1回）
- ・避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施
- ・I P M（日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや虫等の有害生物から防除する方法：総合的病害生物管理）の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践
- ・日常的な施設の維持管理及び修繕による安全確保
  - 収蔵庫2系統空調機器更新工事
  - 本館浄化槽水中ブローア配管及び分解修繕
  - 多機能トイレ自動ドア装置交換修繕

#### ④博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

学校・他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化するとともに、袖ヶ浦公園・周辺の遺跡・歴史遺産を活用し、博物館と市民が融合した魅力的な博物館活動を継続します。

##### ア 周辺施設との連携

- ・公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動（出前講座・展示・現場出張サービス）
- ・袖ヶ浦公園・根形公民館等との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。

##### イ 郷土博物館実習生の受入

- ・学芸資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。

##### ウ 各博物館協会協議会等への参加

- ・日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会、君津地方公立博物館連絡協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。
- ・日本博物館協会千葉県大会への協力（実行委員）

##### エ 博物館周辺の景観整備

- ・緑地管理
- ・万葉植物園等屋外附属施設管理
- ・公園管理組合との共通認識をもった管理

##### オ 国県等の博物館施策及び文化財保護行政の動向把握

- ・文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。

##### カ 庁内関係各課との連携

- ・生涯学習課と連携し、文化財情報の共有や協働事業の実施により相乗効果を高める。
- ・生涯学習課と連携し、山野貝塚の整備計画の検討及び山野貝塚展示室の充実を図るための検討を行う。
- ・公民館・図書館との連携

## 2 郷土博物館事業の記録

### (1) 博物館協議会

博物館法第 20 条に基づいて博物館の運営に関し館長の諮問に応じ、博物館の各種事業企画等について審議するとともに、令和 4 年度に新たに策定した博物館活動の指針『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく 35 の展望－』に基づき、昨年度の郷土博物館の運営に関する点検と評価を実施しました。

#### 博物館協議会 会議開催状況

回	日 程	内 容	参加者
1	7月21日 (金)	・令和 4 年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について ・令和 5 年度郷土博物館の事業計画について ほか	9 名
2	11月21日 (火)	・市原歴史博物館の活動について（現地視察） 展示施設・収蔵施設・歴史体験館の視察、博物館活動の説明	9 名
3	2月 8 日 (木)	・令和 5 年度郷土博物館事業の成果と課題について ・令和 6 年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策（案）並びに令和 6 年度事業計画（案）について ほか	10 名

### (2) 博物館運営事業

博物館活動を円滑に遂行するための各種事務、並びに千葉県博物館協会・君津地方公立博物館協議会等の各種関係団体との情報交換・調査研究・研修等を行いました。また、第 71 回博物館大会においては、実行委員及び当日サポートスタッフとして企画、運営に協力しました。

#### ・第 71 回博物館大会（千葉県大会）

11 月 15 日(水)～17 日(金) 全国博物館フォーラム、分科会、シンポジウムほか

#### ・君津地方公立博物館協議会研修会

12 月 13 日(水) 館外研修会「市川自然博物館及び浦安市郷土博物館の視察」

1 月 18 日(木) 第 1 回「千葉県文書館企画展及び千葉市立郷土博物館特別展見学」

2 月 14 日(水) 第 2 回「博物館におけるこれからのデジタル発信について」

講師：TRC-ADEAC 株式会社 堀尾あづみ 氏

#### ・千葉県博物館協会研修会

1 月 31 日(水) 「デジタルアーカイブの課題と展望」

講師：千葉市美術館 館長 山梨絵美子 氏

東京文化財研究所文化財情報資料部 専門職員 城野誠治 氏

### (3) 調査研究事業

地域の歴史に関する資料の収集・保存等の調査や企画展に関する調査を行うとともに、学

芸員の個別調査研究を進め、調査の成果を展示や教育普及事業等に活用することができました。

- ・袖ヶ浦市の縄文時代・弥生時代に関する調査
- ・袖ヶ浦市内の生物に関する調査
- ・中世荘園に関する調査
- ・旧石器時代に関する調査
- ・古代の植物利用に関する調査

#### (4) 教育普及事業

地域に根ざした博物館活動、市民の学習意欲に応えられる博物館活動の一環として、各種講習・講座の充実を図りました。令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症が、季節性インフルエンザ等と同等の第5類感染症へ移行したことにより、ミュージアム・フェスティバルをはじめとしたほぼ全ての事業を、コロナ禍以前の形態で実施することができました。

また、令和2年度から継続してきた国庫補助事業『民俗文化財等伝承・活用事業』は、4年間の集大成として、講演会の開催と記録誌の刊行を行いました。

<b>★博物館講座「袖ヶ浦学」(5回)</b> 歴史・民俗分野を主としながらも、多角的に「袖ヶ浦」に迫る内容としました。	4月～2月	
第167回(友の会記念講演会)「城からたどる袖ヶ浦の戦国時代」 講師：大多喜町教育委員会 小高 春雄	4月23日(日)	53人
第168回「拓本ってなに?～身近なものから国宝までを写し取る技～」 講師：書家・拓本家 金木 和子	7月22日(土)	18人
第169回「地震の歴史をまなぶ」 講師：東京大学地震研究所 加納 靖之	10月22日(日)	27人
第170回「袖ヶ浦のお医者さん列伝」 講師：袖ヶ浦市郷土博物館 桐村 久美子	12月16日(土)	30人
第171回「そではく冬のバードウォッチング2024」 講師：千葉市野鳥の会 会長 大島 健夫	3月9日(土)	15人
合計		143人
<b>★第26回ミュージアム・フェスティバル</b> 昨年度は開館40周年事業として11月に開催したため、6月開催はコロナ禍以降初となりました。ジャグリングや積み木ショー等親子で楽しめるプログラムのほか、勾玉づくり、火起こし体験、たたき染め等博物館ならではの体験を実施し、多くの参加者が体験しました。	6月10日(土) 6月11日(日)	1,639人

<b>★自然と歴史の散策会（2回）</b> 県内外の史跡・博物館等を見学し、自然や歴史に親しむとともに、市民の交流と学びの場として事業を展開しています。	6月・12月	
第1回「市原歴史博物館・上総国分尼寺跡展示館見学」	6月25日(日)	20人
第2回「小平市ふれあい下水道館、国立天文台見学」	12月13日(水)	23人
合計		43人
<b>★夏の子ども向けイベント</b>		
企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」関連事業「上池いきもの調査隊！ 拡大スペシャル」 講師：環境省希少野生動植物種保全推進員 大島健夫	7月29日(土)	12人
<b>★博図公連携事業等(公民館等体験事業、出前講座等のアウトリーチ)</b>	通年	
市民会館・平川公民館第2回乳幼児家庭教育学級「自然とふれあう 虫の観察会」	6月18日(日)	14人
総合教育センターなつやすみ調べ学習相談会(歴史、虫・水生生物)	7月26日(水)	13人
わんぱくクエスト(ナイトミュージアム)	7月26日(水)	18人
わんぱくクエスト(館内見学・火おこし体験・ナイトミュージアム)	7月27日(木)	27人
わんぱくクエスト(館内見学・火おこし体験)	7月28日(金)	8人
根形公民館第3回地域再発見講座「蔵波・川原井城跡地をめぐる！」	9月15日(金)	18人
平岡公民館第3回ひらおかシニアセミナー「高谷地区歴史探訪」	9月21日(木)	16人
退職校長会歴史ウォーク「横田郷」	10月17日(火)	11人
畑沢公民館はたざわ歴史講座第5回学習会「弥生時代とは」	10月20日(金)	31人
市民会館第1回男性セミナー「鎌倉街道を歩こう！」	10月22日(日)	19人
合計		175人

★そではく考古学講座 弥生時代研究最前線 (5回・連続講座)	10月～2月	
第1回「稲作伝来から弥生の争い、そしてクニのまとまりへ」 講師：郷土博物館 西原 崇浩	10月7日(土)	23人
第2回「邪馬台国時代の前夜から卑弥呼の台頭、そして古墳時代へ」 講師：郷土博物館 西原 崇浩	10月28日(土)	29人
第3回「弥生の風、古墳の路 房総から見た邪馬台国時代とその前後」 講師：市原市埋蔵文化財調査センター 小橋 健司	12月10日(日)	29人
第4回「国立歴史民俗博物館見学」	1月13日(土)	25人
第5回「袖ヶ浦の歴史を辿る 弥生から古墳へ」 講師：袖ヶ浦市教育委員会生涯学習課 鎌田 望里	2月11日(日)	26人
合計		132人
★その他各種普及事業 市民学芸員や博物館友の会のワークショップや単発的な各種講座等を開催しています。	通年	
令和4年度企画展Ⅲ「袖ヶ浦の美術Ⅱ 傘寿記念 辻元大雲 回顧書展」ギャラリートーク①(令和4年度継続事業) 講師：辻元 大雲	4月2日(日)	75人
令和4年度企画展Ⅲ「袖ヶ浦の美術Ⅱ 傘寿記念 辻元大雲 回顧書展」ギャラリートーク②(令和4年度継続事業) 講師：辻元 大雲	4月8日(土)	65人
企画展Ⅰ「井出先生の写真館ーキミ、シニタマフコトナカレー」関連事業「こんな本読んでたんだね、戦時中の子どもたち」	5月5日(金)	68人
企画展Ⅰ「井出先生の写真館ーキミ、シニタマフコトナカレー」展示解説会(第1回)	5月6日(土)	7人
企画展Ⅰ「井出先生の写真館ーキミ、シニタマフコトナカレー」展示解説会(第2回)	6月10日(土)	29人

企画展Ⅰ「井出先生の写真館ーキミ、シニタマフコトナカレー」展示解説会（第3回）	7月1日（土）	24人
企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」展示解説会（第1回）	10月15日（日）	7人
企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」関連事業「里山を歩いて考えようーどう守る？袖ヶ浦の在来種ー」 講師：上総自然学校 上田 隆 環境省希少野生動植物種保全推進員 大島 健夫	10月29日（日）	17人
企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」関連事業『クイズ「そではくからの挑戦状 めざせ外来種博士！！』	11月19日（日）～ 12月17日（日）	人数未計測
企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」展示解説会（第2回）	11月19日（日）	30人
企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」展示解説会（第3回）	12月9日（土）	13人
合計		335人
<b>★国庫補助事業「民俗文化財等伝承・活用事業 上総掘りの技術」</b> 令和2～5年の期間に実施し、令和3～5年度の3か年で上総掘りの技術を後世に伝承し継承するための映像記録を制作しました。（各年1本制作） また、最終年度となる今年度は講演会を開催したほか、技術伝承用記録誌を刊行しました。	7月～3月	
<b>重要無形民俗文化財上総掘りの技術講演会「上総掘りを伝えるために」</b> 講師：袖ヶ浦市教育委員会生涯学習課 能城 秀喜 上総掘り技術伝承研究会副会長 藤代 かおる 文化庁文化財第一課 主任文化財調査官 前田 俊一郎	2月25日（日）	65人
<b>★上総掘り技術伝承研究会の活動支援</b> 博物館水のふるさと内で掘削等の活動をしています。今年度は、昨年度から引き続き前述の国庫補助事業における動画撮影にご協力いただいたほか、講演会の講師及び記録誌の原稿執筆を願いました。	通年	会員17人

<p><b>★友の会活動への支援</b></p> <p>今年度から新たに1グループが加わり、8グループ(凧の会・土器作りの会・仏像を学ぶ会・何でも有り会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画葉月の会)が自主的に活動しています。</p> <p>自主活動のほかに、博物館と協働で2つ事業を実施したほか、会報「友の会だより」53・54号を発行しました。</p>	<p>通年</p>	<p>会員 59 人</p>
<p><b>【友の会協働事業】</b> もっと知りたい講座「しいのもりを歩く 一みて・まなぶ草木と里山―」</p> <p>講師：椎の森里山会</p>	<p>11月25日(土)</p>	<p>15人</p>
<p><b>【友の会協働事業】</b> 袖ヶ浦市郷土博物館友の会「凧の会」第18回新春凧揚げ会</p>	<p>1月14日(日)</p>	<p>177人</p>
<p>合計</p>		<p>192人</p>

#### (5) 地域資料管理活用事業

館蔵資料(古文書等)の台帳作成及び整理や閲覧対応(デジタル公図を含む)のほか、収蔵資料の保存修復処理及び埋蔵文化財写真のデジタル化を行いました。収蔵環境の維持と整備にも努め、資料保存のための燻蒸処理、虫害等防止のための館内環境整備を行っています。また、会計年度任用職員を雇用し、収蔵庫の資料整理を行いました。さらに、これら博物館の収集・収蔵資料の整理・情報化の成果と、市民による調査研究等を発信するため、『袖ヶ浦市史研究』第22号の原稿を募集しました。

このほか、資料の活用や保存等に係る知見の習得のため、千葉県史料保存活用連絡協議会の研修会に参加しました。

- ・奈良輪漁組史料の保存・修復(31点)
- ・収蔵庫の資料整理及び適切な資料の保存
- ・収蔵資料の調査研究
- ・企画展開催に伴う戦争関係資料や八日講関係資料等の調査研究
- ・収蔵資料のトピックス展示(飽富神社唯一社頭年中行事帳、紫微宮星座呪符木簡)
- ・収蔵資料のホームページでの公開
- ・ホームページの更新、SNSによる情報発信
- ・古文書等表題データベース作成
- ・千葉県史料保存活用連絡協議会研修会

6月6日(火) 講演会「アーキビストの養成―資格・基準および学理構成―」

講師：学習院大学大学院教授 保坂 裕興志 氏

7月20日(木) 現地見学会(市原歴史博物館)

12月8日(金) 第1回研修会「デジタルアーカイブ入門～これからの自治体職員として身につけるべきこと～」

講師：慶應義塾大学文学部准教授 福島 幸宏 氏  
 1月26日(金) 第2回研修会「デジタルアーカイブ実践編」  
 市民・関係人口による文化財情報の取得と公開  
 講師：岐阜県飛騨市教育委員会 三好 清超 氏  
 千葉県市町村の先進事例発表  
 講師：白井市教育委員会 戸谷 敦司 氏  
 講師：大網白里市教育委員会 武田 剛朗 氏

#### (6) 博学連携事業

博物館が学校と連携し、学校教育の中で、博物館の施設や資料を活用することで、子どもたちの経験値向上と郷土愛の育成を図りました。市内小学校3年生の昔の生活体験、6年生の歴史体験といった校外学習のほか、校外学習の実施が難しい学校や、校区の史跡についてのテーマ学習等総合的な学習の時間に対応したアウトリーチを実施しました。また、体験学習等への市民学芸員（ボランティア）の参加により、大人も子供も育つ世代間交流の場としても機能しています。

また、職場体験及び博物館実習生の受け入れを行い、博物館における日常業務のほか、教育普及事業の運営や展示の企画等のプログラムを実施しました。

校外学習支援	通年	市内外の小 学校 13回 718人
実物資料貸し出し	通年	3回 10点
学習相談	通年	14回
学校向けワークシートの作成・活用	通年	3回
アウトリーチ活動(出前展示・出前授業)	通年	5回 615人
学校図書館との連携促進（物流システムの活用）	通年	2回 8点
職場体験受入	通年	1校 1人
博物館実習生受入	通年	1校 1人
インターンシップ受入	通年	1校 1人

#### (7) 展示更新推進事業

市民の知的要求に応え、リピーターの確保に努めるため、企画展2回・ロビー展5回を開催しました。企画展は「戦争」と「外来種」という、地域の記憶と現在進む問題を映し出す内容としました。ロビー展では今年度新たに追加された市指定文化財「飽富神社唯一社頭年中行事帳」を紹介するトピックス展等を行いました。また、屋外展示施設となる旧進藤家住宅では、友の会盆栽愛好会による盆栽展や市民学芸員による五月人形展示などで施設の有効活用を図りました。

さらに、千葉県誕生 150 周年事業「百年後芸術祭～環境と欲望～内房総アートフェス」では、旧進藤家住宅及び復元古代住居、並びにアクアラインなるほど館において、アート作品の展示に協力しました。

<b>★常設展</b> 本館では、映像・歴史・民俗・昭和の暮らし・上総掘り・国史跡山野貝塚各部屋の展示及び情報提供によって、袖ヶ浦市の暮らしの移り変わりなどを理解しやすいものとなりました。 また、屋外展示施設のアクアラインなるほど館・旧進藤家住宅・万葉植物園等の有効活用を図っています。その一環として、万葉植物園における展示の充実と利便性の向上のため、歌意と植物の解説の作成し、読み取り用のQRコードを追加しました。	本館	26,661人
	アクアラインなるほど館	407人
	旧進藤家住宅	11,502人
合計		38,570人
<b>★特別展・企画展</b>		
令和4年度企画展Ⅲ「袖ヶ浦の美術Ⅱ 傘寿記念 辻元大雲 回顧書展」(令和4年度継続事業)	4月2日(火)～4月16日(日)	2,493人
企画展Ⅰ「井出先生の写真館ーキミ、シニタマフコトナカレー」	4月29日(土・祝)～7月30日(日)	8,198人
企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」	10月7日(土)～12月17日(日)	6,476人
合計		14,674人
<b>★ロビー展示・ミニ企画展等</b>		
令和5年度 博物館実習展示【そではく×実習生合同企画】「関東大震災から100年ー震災の教訓から考える袖ヶ浦の未来ー」	8月3日(木)～8月30日(水)	1,245人
トピックス展示「新指定文化財展」	9月1日(金)～11月12日(日)	5,065人
千葉県博物館協会巡回展示『地域の魅力再発見「ちばの博物館」』	11月18日(土)～12月9日(土)	1,910人
友の会「盆栽愛好会」早春花展(旧進藤家住宅)	4月21日(金)～4月23日(日)	275人
友の会「盆栽愛好会」秋季盆栽展(旧進藤家住宅)	10月27日(金)～10月29日(日)	310人
友の会「凧の会」大凧ロビー展示	1月4日(木)～	1,355人

	1月31日(水)	
友の会「盆栽愛好会」早春花展(旧進藤家住宅)	3月8日(金)～ 3月10日(日)	391人
市民学芸員自主企画展示「旧進藤家住宅のおひなさま」(旧進藤家住宅・令和4年度継続事業)	4月1日(土)～ 4月2日(日)	372人
市民学芸員自主企画展示『古民家で「端午の節句」』(旧進藤家住宅)	4月25日(火)～ 5月14日(日)	1,118人
市民学芸員自主企画展示「はくぶつかんで七夕まつり」	7月2日(日)～ 7月9日(日)	800人
市民学芸員自主企画事業『万葉こどもまつり「みんなでお絵描き」作品展』	11月23日(木・祝) ～12月24日(日)	2,173人
市民学芸員自主企画展示「はくぶつかんのひなまつり」	2月17日(土)～ 3月31日(日) 【会期2月17日(土)～4月7日(日)】	4,007人
合計		19,021人

#### (8) 市民学芸員協働事業

市民とともに歩む博物館の実現のため、市民学芸員を育成し、協働による博物館事業の実施や調査・研究活動の支援を行いました。

今年度も昨年度に引き続き、新規市民学芸員の獲得のため、通年での連続講座として市民学芸員養成講座を開催し、7名が新規加入しました。また、既存の市民学芸員の意識向上と学びサポートのため、フォローアップ研修を実施しました。さらに、令和6年度企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」に向けたワーキンググループを結成し、博物館と協働で展示の企画及び調査を行いました。

<b>★市民学芸員養成講座(11回・連続講座)</b>	4月～2月	
第1回「オリエンテーション/教育普及事業・博学連携事業と市民学芸員活動について」	4月22日(土)	4人
第2回「小学校6年生体験学習スタッフ養成講座」	5月13日(土)	4人
第3回『博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」』	6月24日(土)	5人
第4回「I PMについて学ぼう」※博物館実習と合同開催	7月22日(土)	4人
第5回「そではく大解剖!そではく辛口採点会」	8月5日(土)	4人
第6回「博物館の調査研究とフィールドワークの心得」	9月9日(土)	6人

第7回「フィールドワーク実習（下新田・医王寺石造物野外調査）」	10月14日（土）	7人
第8回「よその博物館を見に行こう—松戸市立博物館・戸定歴史館・戸定邸の見学—」	11月11日（土）	6人
第9回「小学3年生体験学習スタッフ養成講座」	12月9日（土）	6人
第10回「博物館の資料整理を体験しよう」	1月20日（土）	6人
第11回「修了式・記念講演会」 ※第2回フォローアップ研修と合同	2月24日（土）	7人
合計		59人
<b>★市民学芸員フォローアップ研修（2回）</b>	10月、2月	
第1回『移動研修「国際理解と宗教」』 東京ジャーミイ・駒澤大学禅文化歴史博物館見学、 等々力不動尊拝観	10月5日（木）	8人
第2回「日本人ムスリムによる、イスラームのお話」 講師：東京ジャーミイ・トルコ文化センター広報・ 出版担当 下山 茂	2月24日（土）	9人
合計		27人
<b>★自主企画事業、外部事業への参加等</b>		
袖ヶ浦市商工会青年部・袖ヶ浦市内房総アートフェ ス推進協議会共済事業「がうらっこ未来 CANvas ～ SODE JOB & ART ～」出展	9月30日（土）	103人
市民学芸員自主企画イベント「万葉こどもまつり」	11月23日（木・祝）	250人
正月お飾り作り	12月19日（火）	5人
合計		358人
<b>★定例会、事業協力、グループ活動等</b>		
全体会議・定例会 ※4月、6月、8月、11月、1月は中止	5月27日（土）	15人
	7月30日（日）	8人
	9月24日（日）	13人
	10月29日（日）	11人
	12月23日（土）	14人
	2月24日（土）	8人
	3月24日（日）	15人
体験学習協力 ※11回実施分の延べ人数	6月～3月	51人

万葉植物園整備（万葉グループ活動）	通年	会員数 10人
地域の史跡・文化財調査（郷土を学ぶ会活動）	通年	会員数 4人
企画展ワーキンググループ	8月～3月	グループ人数 13人

### （9）施設管理事業

博物館施設として恒常的に適正な施設環境を整備するために、本館及び屋外展示施設等の維持管理（修繕・工事・清掃・警備委託・緑地管理・各種点検業務・資料くん蒸・環境測定等）を行いました。また、収蔵庫内の資料の適正な管理のため、老朽化の進んだ第2収蔵庫の空調機を更新しました。

日常的な展示環境・収蔵環境の管理としては、年間を通してIPM（総合的有害生物管理：日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや文化財害虫等の有害生物から防除する方法）の理念に基づき、文化財害虫の駆除や侵入防止用テープの設置のほか、発生源になりうる個所を中心とした清掃作業等を実施しました。

さらに、博物館来館者が安心・安全に見学できるよう月1回の安全点検と、消防署の協力による本館避難訓練及び旧進藤家住宅の消火訓練を実施しました。

- ・修繕5件

- 郷土博物館エントランスコート床タイル張替修繕

- 郷土博物館本館多目的トイレ自動ドア装置交換修繕 他

- ・消防避難訓練

- 本館：令和5年9月5日（火）に火災を想定した避難訓練を実施

- 旧進藤家住宅：令和6年1月25日（木）に火災を想定した避難訓練及び消火訓練を実施

## 議題（１）令和５年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について

### 1 提案理由

博物館法第9条には、博物館の運営の状況の評価を行うとともに、博物館運営の改善をはかるため、必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが規定され、公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準第4条第2項においては、博物館協議会の活用やその他の方法により点検と評価を行い、その結果を公表するよう努めることが示されている。

そのため、郷土博物館の活動目標及び活動計画でもある『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく35の展望—』（別添資料）に基づき、令和5年度郷土博物館の運営について点検と評価をしようとするものである

### 2 目標値設定の考え方

目標値については、数値目標の設定が難しいと判断し、これまで設定していなかったため、感覚的な評価になっていたが、客観的に博物館の運営について評価する必要があるため、35項目にわたる「あるべき姿」すべてに目標値を設置した。

目標値の設定にあたっては、前年に実施した取り組みの成果をもとに設定し、年度ごとに設定するものとする。数値目標が難しい項目については、客観的に評価できる目標値を設定することとする。

### 3 評価の方法

- ・「あるべき姿」の取り組み項目すべてに年度ごとに課題等を踏まえた目標値を設定し、実績値と達成度を示す。

達成度を◎ ○ △ ×の4段階で表示

◎：目標値に対して100%以上の達成率

○：目標値に対して80%以上100%未満の達成率

△：目標値に対して60%以上80%未満の達成率

×：目標値に対して60%未満の達成率

- ・評価の基準については、7つの活動目標単位ごとの目標値に対する達成度を

◎：30点、○：20点、△：10点、×：0点として活動指標ごとの平均値を出し、A、B、Cの3段階で評価

A：施策の効果が十分に図られている。（24点以上）

B：施策の効果が図られ、一定の成果があった。（24点未満18点以上）

C：施策の効果が十分に図られているとは言えず改善が必要である。

（18点未満）

#### 4 令和5年度「そではく35の展望」事業目標値と達成度

活動目標	あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
(1)地域の資料を守る－資料の収集と保管－	1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。展望①	収蔵庫環境調査回数	2回	2回	◎
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。展望②	収蔵資料の保存修復委託件数	1件	1件	◎
	3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。展望③	資料購入を目的とした市場調査回数	3回	5回	◎
3項目 ◎3 90点 平均値30点			評価A		
(2)地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。展望④	ロビー展示の開催回数	2回	5回	◎
	2.市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。展望⑤	企画展アンケート実施回数	2回	2回	◎
	3.地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。展望⑥	ホームページで資料の公開件数	3件	4件	◎
	4.地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。展望⑦	ジュニア学芸員体験の実施回数	1回	1回	◎
	5.調査研究の成果が公開されている。展望⑧	市史研究・袖ヶ浦学等で博物館職員の研究成果発表件数	2件	2件	◎
	6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。展望⑨	講座講師や資料調査の研究者との情報交換件数	3件	5件	◎
6項目 ◎6 180点 平均値30点			評価A		
(3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信－	1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。展望⑩	常設展示の展示替え	1回	1回	◎
	2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。展望⑪	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	2件	1.5件	○
	3.地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。展望⑫	企画展・特別展見学者数	1回の見学者平均5,000人	7,337人	◎
	4.常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。展望⑬	市民学芸員自主企画展実施回数	5回	4回	○
	5.情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。展望⑭	QRコードの活用	1件	1件	◎

活動目標	あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
(3)学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー	6. 未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。 展望⑮	ミュージアム・フェスティバルのボランティアの延べ人数	135人	198人	◎
	7. 講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。 展望⑯	講座でのアンケート調査件数	3件	2件	△
	8. さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。 展望⑰	ホームページ更新件数	25回	25回	◎
	9. 図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。 展望⑱	図書室利用件数	10件	14件	◎
	10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。 展望⑲	レファレンス件数	45件	48件	◎
	11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。 展望⑳	市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数	130件	132件	◎
11項目 ◎8 ○2 △1 290点 平均値 26.4点				評価A	
(4)地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー	1. 市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。 展望㉑	市民学芸員・友の会の会員数	105人	106人	◎
	2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。 展望㉒	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	5回	10回	◎
	3. 地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。 展望㉓	公民館講座への協力・講師派遣	3件	10件	◎
	4. 地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。 展望㉔	校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数	延べ55人	延べ51人	○
	5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。 展望㉕	他団体との連携事業の実施回数	3回	3回	◎
5項目 ◎5 ○1 150点 平均値 28.0点				評価A	
(5)安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー	1. 管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理が図られている。 展望㉖	施設の安全点検の実施回数	12回（月1回）	12回（月1回）	◎
	2. 包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。 展望㉗	福祉施設見学受け入れ件数	30件	49件	◎

活動目標	あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
(5)安心・安全な施設にする一施設の維持管理と来館者への配慮	3.危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。 展望⑳	防災訓練の実施回数	年2回 (本館・旧進藤家住宅)	年2回 (本館旧進藤家住宅)	◎
3項目 ◎3 90点 平均値30点			評価A		
(6)博物館の社会的役割を意識する一地域への貢献	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。 展望㉑	袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数	1回	2回	◎
	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。 展望㉒	市民学芸員養成講座実施回数	10回	11回	◎
	3.収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。 展望㉓	高齢者学級等への協力回数	1回	1回	◎
3項目 ◎2 90点 平均値30点			評価A		
(7)博物館の個性を生かし、能力を伸ばす一自己研鑽と研修参加	1.館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。 展望㉔	国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数	1回	1回	◎
	2.館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。 展望㉕	国・県等が主催する研修に出席し、専門的知識を獲得する	3回	7回	◎
	3.他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。 展望㉖	他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数	1回	1回	◎
	4.館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。 展望㉗	研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数	1回	1回	◎
4項目 ◎4 120点 平均値30点			評価A		

令和5年度評価結果 ※ ( ) は令和4年度

◎ : 31項目 (27項目)、○ : 3項目 (4項目)、△ : 1項目 (2項目)、× : 0項目 (2項目)  
7つの活動目標のうち、A評価7、B評価0、C評価0

## ②運営の改善を図るため必要な措置

今後の対応欄の記載事項を必要な措置とする。

## 5 「そではく35の展望」評価結果と令和6年度の目標値

令和5年度の成果をもとに、令和6年度の目標値を設定する。

※令和4年度の目標値の考え方及び目標値を変更するものについて、網掛けにしている

活動目標	あるべき姿	R4年度 評価	R5年度 評価	R6年度 目標値の考え方	目標値
(1)地域の資料を守る－資料の収集と保管－	1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。①	◎	◎	収蔵庫環境調査回数	2回
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。②	◎	◎	収蔵資料の保存修復委託件数	1件
	3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。③	◎	◎	資料購入を目的とした市場調査回数	5回
(2)地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。④	◎	◎	ロビー展示の開催回数	2回
	2.市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。⑤	◎	◎	企画展アンケート実施回数	2回
	3.地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。⑥	◎	◎	ホームページで資料の公開件数	3件
	4.地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。⑦	◎	◎	調査研究を伴う事業の実施回数	2回
	5.調査研究の成果が公開されている。⑧	◎	◎	市史研究・袖ヶ浦学等で博物館職員の研究成果発表件数	2件
	6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。⑨	◎	◎	講座講師や資料調査の研究者との情報交換	3件
(3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信－	1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。⑩	◎	◎	常設展示の展示替えとトピックス展示等の実施	3回
	2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。⑪	◎	○	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	2件
	3.地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。⑫	◎	◎	企画展・特別展見学者数	1回の見学者平均 6,500人
	4.常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。⑬	◎	○	市民学芸員自主企画展示実施回数	5回
	5.情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。⑭	×	◎	QRコードの整備	1件

活動目標	あるべき姿	R4 年度 評価	R5 年度 評価	R6 年度 目標値の考え方	目標値
(3)学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー	6. 未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。⑮	○	◎	ミュージアム・フェスティバルのボランティアの延べ人数	180人
	7. 講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。⑯	○	△	講座でのアンケート調査件数	3件
	8. さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。⑰	◎	◎	ホームページ更新件数	25回
(3)学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー	9. 図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。⑱	△	◎	図書室利用件数	10件
	10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。⑲	○	◎	レファレンス件数	45件
	11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。⑳	○	◎	市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数	130件
(4)地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー	1. 市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。㉑	◎	◎	市民学芸員・友の会の会員の会員数	105人
	2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。㉒	◎	◎	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	8回
	3. 地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。㉓	◎	◎	公民館講座への協力・講師派遣	10件
	4. 地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。㉔	◎	○	校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数	延べ55人
	5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。㉕	◎	◎	他団体との連携事業の実施回数	3回
(5)安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー	1. 管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理がはかられている。㉖	◎	◎	施設の安全点検の実施回数	12回（月1回）
	2. 包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。㉗	△	◎	福祉施設見学受け入れ件数	40件
	3. 危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。㉘	×	◎	防災訓練の実施回数	年2回（本館・旧進藤家住宅）
(6)博物館の社会的役割を意識するー地域への貢献ー	1. 周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。㉙	◎	◎	袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数	2回

活動目標	あるべき姿	R4 年度 評価	R5 年度 評価	R6 目標値の考え方	目標値
(6)博物館の社会的役割を意識する一地域への貢献一	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。⑳	◎	◎	市民学芸員養成講座 実施回数	11回
	3.収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。㉑	◎	◎	高齢者学級・シニアグループへの協力回数	1回
(7)博物館の個性を生かし、能力を伸ばす一自己研鑽と研修参加	1.館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。㉒	◎	◎	国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数	1回
	2.館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。㉓	◎	◎	国・県等が主催する研修に出席し、専門的知識を獲得する	5回
	3.他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。㉔	◎	◎	他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数	1回
	4.館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。㉕	◎	◎	研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数	1回

## 6 郷土博物館の運営の評価について

令和2年度 第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

- ・『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく30の展望－』の見直しについて提案

令和3年度 第2回袖ヶ浦市博物館協議会

- ・『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく35の展望－』を提示
- ・見直し内容の検討・審議

令和4年度 第1回袖ヶ浦市博物館協議会

- ・改正案『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく35の展望－』による令和3年度の点検と評価の結果を提示（試行的運用・評価基準は従来どおり）
- ・本格的運用の審議（令和4年度事業の点検と評価：議題2）

令和5年度 第1回袖ヶ浦市博物館協議会

- ・新たな評価方法に基づいた本格的運用についての審議
- ・教育委員会協議会報告
- ・ホームページ上で公表

## 7 関連法令

### ① 博物館法（抄）

（運営の状況に関する評価等）

第9条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（運営の状況に関する情報の提供）

第9条の2 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

### ② 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準（抄）

（運営の状況に関する点検及び評価等）

第4条 博物館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の事業計画の達成状況その他の運営の状況について、自ら点検及び評価を行うよう努めるものとする。

2 博物館は、前項の点検及び評価のほか、当該博物館の運営体制の整備の状況に応じ、博物館協議会の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、当該博物館の事業に関して学識経験のある者、当該博物館の利用者、地域住民その他の者による評価を行うよう努めるものとする。

3 博物館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

4 博物館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワーク（以下「インターネット等」という。）を活用すること等により、積極的に公表するよう努めるものとする。

# 令和5年度「そではく35の展望」の点検と評価

◎目標(あるべき姿)に限りなく到達した項目 ○目的にある程度達した項目  
 △取り組んだが目的に達しなかった項目 ×取り組まなかった項目

活動目標	あるべき姿	令和5年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(1) 地域の資料を守る —資料の収集と保管—	そではく35の展望①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収蔵庫内の温湿度の日常的な環境管理 第1収蔵庫 25℃ 湿度60%以下 第2収蔵庫 20℃、湿度55%前後 第3収蔵庫 21℃前後 湿度55%前後</li> <li>・ 収蔵環境調査(7月から11月の間で2回) ①昆虫類生息調査 ②空中浮遊カビ類調査 ③酸・アルカリ調査 ④有機酸濃度測定調査 ⑤屋外昆虫侵入防止処理(1回目のみ)</li> </ul> <p>結果：ゴキブリ・イガ類・タバコシバンムシ・ヒメマルカツオブシムシ幼虫の生息が本館各所で見られ、資料への被害が懸念される。(1回目)民俗展示室・第2収蔵庫でチャタテムシ類、映像展示室でキクイムシ類、歴史展示室・荷解室でゴキブリの生息を確認(2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2収蔵庫 酸性傾向、チャタテムシ類が生息</li> <li>・ カビ類が収蔵庫を除く館内全体に多く浮遊</li> <li>・ 収蔵庫内清掃、資料整理実施</li> <li>・ 資料燻蒸業務委託 アクアラインなるほど館で実施</li> <li>・ 第2収蔵庫の空調更新工事を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な管理により適切に保管している。</li> <li>・ 害虫の生息状況が確認でき、やるべき対策がわかった。1回目の調査結果を受けて防虫テープやトラップを増設し、若干の改善が見られた。</li> <li>・ 資料整理や清掃を行い、資料の現状把握をすることができた。</li> <li>・ 資料燻蒸をアクアラインなるほど館で実施することで、新規の収蔵資料も迅速に燻蒸し、収蔵庫へ収納できる流れが整っている。それにより、次の作業である資料整理もスムーズに行われている。</li> <li>・ 第2収蔵庫の空調更新工事により、安定した収蔵環境を維持することが可能になった。</li> </ul> <p>【目標値】収蔵庫環境調査回数 目標値2回:実績値2回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3収蔵庫について、現状の空調機では老朽化による問題があることが以前から指摘されていたが、たびたび不具合が発生している。その都度対症的な処置で維持してきたが、それでは対応しきれないほど老朽化が進んでいる。</li> <li>・ 博物館の老朽化が著しく、資料を保存していくためには問題が多い。</li> <li>・ 施設の老朽化により館内に侵入する虫が増えている。</li> <li>・ 第2収蔵庫は酸性傾向が続いているが、空調更新工事を実施したので、環境が変化している可能性があり、経過観察を要する。</li> <li>・ 資料の館内持ち込みルールの徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3収蔵庫の空調機を更新する必要がある。更新工事までの期間収蔵庫内の環境を保持するために、環境の変化をいち早く察知できるように観察を続け、必要に応じて迅速に除湿機の増設やスポットクーラー等の導入ができるように準備をする。</li> <li>・ 収蔵庫の温湿度管理は継続して毎日記録し、変化があった場合は原因を追求する。収蔵庫の清掃と整理を日常的に行う。</li> <li>・ 大規模改修工事が未定のため、保存資料に影響を与えないように最低限の改修は行っていく。</li> <li>・ 第2収蔵庫は空調更新工事の後、R5年度に防虫処理を実施。(チャタテムシ類は駆除)</li> <li>・ 第2収蔵庫について、フィルム等酸性に傾いた資料の調査を徹底する。</li> <li>・ 資料の館内持ち込みルールの見直し</li> </ul>
	そではく35の展望②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧資料保存箱及び封筒に入っている資料を中性紙の資料保存箱及び封筒へ入れ替え。</li> <li>・ 古文書等の表題データベースを作成し、活用並びに情報公開に備えた。1,323点</li> <li>・ 収蔵資料の修復委託 ：旧奈良輪漁組文書(平成22年度～) 31点実施 799/1,132点 ：遺跡から出土した鉄製品の劣化を抑えるためのパッキング作業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古文書の箱と封筒の入れ替えを行い、古文書の適切な管理を進めた。</li> <li>・ 封筒の入れ替えに合わせ、市史目録の不備を補填し、目録の利便性を高めた。</li> <li>・ 入替作業の際に、収納方法を工夫してより多く1箱に入るようにし、収蔵庫の省スペース化を図った。</li> <li>・ 新収蔵古文書のデータベース化を進めた。</li> <li>・ 鉄製品の劣化を遅らせる対応を行うことができた。</li> </ul> <p>【目標値】収蔵資料の保存修復委託件数 目標値1件:実績値1件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古文書の読める作業者が少ないため、新収蔵古文書の整理に時間がかかる。</li> <li>・ 新収蔵古文書の活用のための目録が必要。</li> <li>・ 第3収蔵庫は飽和状態のため、さらに省スペース化を進める必要がある。</li> <li>・ 限られた予算の範囲内では1年に保存修復する点数に限られる。</li> <li>・ 鉄製品のパッキング作業だけでは適切な処理とは言えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古文書の読める作業者の確保</li> <li>・ 市史目録8巻刊行以降に収蔵した古文書について、目録刊行に向けて作業を進める。</li> <li>・ 収蔵資料の保存修復は予算の範囲内で計画的に行っていく。</li> <li>・ 劣化しやすい近現代文書を中心に、古文書等の収蔵資料の劣化状況の確認し、修復に必要な資料を把握して優先順位をつける。</li> <li>・ 鉄製品に関しては計画的に科学的な保存処理を行う必要がある。</li> </ul>
	そではく35の展望③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄贈・寄託資料の受入れ ：新規寄贈資料件数16件</li> <li>・ 寄託から寄贈への移行1件</li> <li>・ 古書店やインターネットへの市外流出資料の調査 5回、購入3件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内外からの寄贈希望資料について精査し、地域資料としての価値を判断して受け入れを行った。</li> <li>・ 市民学芸員との協働により地域資料の情報を収集した。</li> </ul> <p>【目標値】資料購入を目的とした市場調査回数 目標値3回:実績値5回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄託者の代替わりにより、所蔵者と連絡が取れない寄託資料が出てきている。</li> <li>・ 返却した目録掲載資料については、現状を把握する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市外流出資料については、引き続き調査を行う。</li> <li>・ 現在博物館に寄託・寄贈されていない目録掲載資料について、現状確認を行う。</li> </ul>

活動目標	あるべき姿	令和5年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(2) 地域を探り、発信するー調査研究と成果活用ー	そではく35の展望④	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種情報の記録と管理、データベース等の活用による情報提供。</li> <li>調査研究やその成果の展示活動を行い、刊行物などによる情報公開               <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展Ⅰ「井出先生の写真館」開催</li> <li>企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」開催、図録刊行</li> </ul> </li> <li>『袖ヶ浦市史研究』第22号原稿募集</li> <li>ロビー展示の開催 5回               <ul style="list-style-type: none"> <li>博物館実習展示【そではく×実習生合同企画】「関東大震災から100年」</li> <li>トピックス展示「新指定文化財展」</li> <li>千葉県博物館協会巡回展示『地域の魅力再発見「ちばの博物館」』</li> <li>紫微宮星座呪符木簡展示</li> <li>万葉こどもまつり『みんなでお絵描き』作品展</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が新たな価値を発見し、新たな学びの目的を創造できるような生涯学習の拠点となり、地域の歴史や文化を深く理解する機会を提供することができた。</li> <li>散策マップ等により、市内に限らず市外・県外からの利用者に対して、袖ヶ浦市内の歴史・文化の有効な情報を提供できた。</li> <li>生涯学習課や県博協といった他機関と連携し、ロビー展示をタイムリーに開催することができた。</li> </ul> <p>【目標値】ロビー展示の開催回数 目標値2回:実績値5回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>館蔵資料や情報についての整理が追い付かず、来館者の疑問に対しては個別対応となることが多く、専門職員が足りないため、対応が後回しになることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き地域資料や情報の収集及び整理に努め、わかりやすい情報提供の実施をはかる。</li> <li>市民学芸員とも連携し、散策マップや情報シート等のさらなる充実をはかる。</li> </ul>
	そではく35の展望⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展に伴うアンケートの実施 2回</li> <li>市民学芸員・友の会を会員を対象としたニーズ調査の実施</li> <li>テーマを設定した調査研究の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>袖ヶ浦市内の縄文時代・弥生時代に関する調査、袖ヶ浦市内の生物に関する調査、中世荘園に関する調査、民俗祭祀に関する調査</li> </ul> </li> <li>古代の植物利用に関する調査</li> <li>収蔵資料の精査</li> <li>市民学芸員と協働での企画展調査の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートにより、来館者のニーズを把握することができた</li> <li>市民学芸員定例会や友の会総会等で意見を収集することができた。</li> <li>考古学の最新の研究についての成果を考古学講座として市民に還元できた。</li> <li>企画展「出羽三山」に向けて市民学芸員と協働で調査を実施し、その成果を展示で活用することができた。</li> </ul> <p>【目標値】企画展アンケート実施回数 目標値2回:実績値2回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館しない市民のニーズ調査ができていない。</li> <li>他業務等により、職員の調査研究のための時間の確保や継続的に取り組むことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館しない市民へのニーズ調査を工夫する必要がある。</li> <li>事業のスクラップアンドビルドも検討し、調査研究できる状況を確認できるように努める。</li> </ul>
	そではく35の展望⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館ホームページ上で収蔵資料の公開 4件</li> <li>古文書のデータベース化 1,323件</li> <li>会計年度任用職員を雇用して民俗資料、歴史資料のデータベース化と台帳作成</li> <li>収蔵資料の活用・公開 閲覧36件・資料貸与2件・写真資料掲載 許可取り扱い16件</li> <li>埋蔵文化財ポジフィルムデジタル化 13遺跡分 (平成16年度～平成29年度まで委託により実施 令和2年度からは会計年度任用職員により実施)</li> <li>近年新たに収蔵した民俗資料のデータベース作成や台帳整備を行った。(会計年度任用職員雇用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄贈などによる新規の資料・情報を収集・保管することができ、地域研究に資する資料の幅が広がった。</li> <li>埋蔵文化財写真のデジタル化を会計年度任用職員により実施した。</li> <li>資料整理に専従する会計年度任用職員を雇用し、近年受け入れた民具の把握と収蔵、データベース作成を進めることができた。</li> <li>ホームページでの資料公開は4件公開することができた。               <ul style="list-style-type: none"> <li>紫微宮星座呪符木簡・井出先生の写真館 番外編「ある日の横田駅」・戦争関係資料「宗政武夫の遺品」・出羽三山信仰関係資料</li> </ul> </li> </ul> <p>【目標値】ホームページでの資料の公開件数 目標値3件:実績値4件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベースが活用しやすい形になっておらず、こまめな更新ができていない</li> <li>所蔵者の代替わりにより、町史・市史の目録に掲載されている資料の散逸が懸念される。</li> <li>近年受け入れた民具の整理に時間を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より活用しやすいデータベースを工夫し、公開する。</li> <li>博物館から多くの人々に情報を提供し、地域資料の収集につなげる。</li> <li>返却された資料の現況調査の必要がある。</li> <li>近年受け入れた民具については、引き続き会計年度任用職員を雇用し、データベース作成等台帳を整備していく。</li> <li>収蔵庫の清掃や整理作業については、継続し、日常的に行っていく。</li> <li>埋蔵文化財写真デジタル化は、引き続き会計年度任用職員により実施する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究の成果を生かし、企画展「袖ヶ浦の外来種」を開催した。</li> <li>ジュニア学芸員体験と合わせ、袖ヶ浦公園周辺の生物について調査を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展で、袖ヶ浦の自然環境についての調査成果を公開することにより、さらなる情報収集や調査の機会へつなげることができた。</li> <li>ジュニア学芸員体験は5年継続して実施し、データを蓄積することができた。</li> </ul> <p>【目標値】ジュニア学芸員体験の実施回数 目標値1回:実績値1回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職員が配置されていないと定期的な調査やデータの蓄積が難しい。</li> <li>蓄積されたデータについて、公開する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き調査を継続し、データを蓄積していく。</li> <li>報告書の刊行等、蓄積されたデータの公開方法について検討し、実施へ向けて準備する。</li> </ul>

活動目標	あるべき姿	令和5年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(2) 地域を探り、発信するー調査研究と成果活用ー	そではく35の展望⑧  5.調査研究の成果が公開されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>『袖ヶ浦市史研究』第22号の原稿募集</li> <li>企画展での調査研究成果公開。 <ul style="list-style-type: none"> <li>：企画展Ⅰ「井出先生の写真館」</li> <li>：企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」</li> </ul> </li> <li>企画展関連事業（展示解説会）による研究成果発表（6回）</li> <li>袖ヶ浦学による地域研究成果発表。 <ul style="list-style-type: none"> <li>：博物館職員の研究成果発表1件</li> </ul> </li> <li>考古学講座の実施による袖ヶ浦の弥生時代についての研究発表。 <ul style="list-style-type: none"> <li>：博物館職員の研究成果発表1件</li> </ul> </li> <li>ホームページで調査研究成果の公開 4件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『袖ヶ浦市史研究』第22号の原稿募集により、幅広いジャンルにわたる研究者の研究成果を集約することができた。市職員からの応募も増えた。</li> <li>調査研究の成果を企画展として公開し、また、図録刊行により、市民及び来館者に情報を還元することができた。</li> <li>袖ヶ浦学等の講座により、地域研究の成果を詳細に伝えることができた。</li> </ul> <p><b>【目標値】市史研究・袖ヶ浦学で博物館職員の研究成果発表件数</b> 目標値2件:実績値2件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>市史研究及び袖ヶ浦学は、専門職員の研究成果発表の場として、より活用されるべきである。</li> <li>インターネットやSNS等を活用した研究成果公開はさらに進める必要がある。</li> <li>継続した研究体制ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸員資格を持つ者を中心に、当市職員に呼びかけ、市史研究への寄稿や袖ヶ浦学での研究発表者を募る。</li> <li>インターネットやSNS等を活用した研究成果公開の方法について検討し、実施する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑨  6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門研究者による袖ヶ浦市史研究への応募12人</li> <li>講座での専門研究者の発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>：袖ヶ浦学、考古学講座</li> </ul> </li> <li>企画展へ向けた資料調査に係る先進の研究者による助言</li> <li>博物館実習生の受け入れによる学芸員後継者育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>：博物館実習生 1名</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座等での講演などを通して、博物館の調査研究活動を共に行える研究者や人材との協力体制を作ることができた。</li> <li>次代を担う新たな学芸員を育成することができた。</li> <li>資料閲覧で来館する研究者や袖ヶ浦学の講師等に袖ヶ浦市史研究での執筆を紹介する等、積極的に交流を試みた。</li> </ul> <p><b>【目標値】講座講師や資料調査の研究者との情報交換件数</b> 目標値3件:実績値5件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流が一時的なもので継続性がない場合も多い。</li> <li>外部の研究者への効果的な情報提供のために、資料への理解や情報整理を進めておく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからも袖ヶ浦市史研究等を通して地域の新たな人材を掘り起こしていくとともに、大学などの研究機関と連携を深め、博物館活動への協力を求めていく。</li> <li>袖ヶ浦市史研究や袖ヶ浦学等で若手専門職員の研究成果発表の場を増やす。</li> </ul>
(3) 学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー	そではく35の展望⑩  1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展示の通史展示（近現代）を部分的に更新した。</li> <li>調査研究の成果の一環として企画展を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展示の更新や調査研究成果を活かした企画展などにより、新たな情報を利用者に提供することができた。</li> </ul> <p><b>【目標値】常設展示の展示替え</b> 目標値1回:実績値1回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来的に新たな展示構想を改修計画とあわせて検討する必要がある。</li> <li>常設展示への市民の意向については、あまり把握できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き企画展等の調査研究の成果を常設展示の展示更新に活用していく。</li> <li>アンケート等により、来館者の意向を把握するように努める。</li> </ul>
	そではく35の展望⑪  2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の資料を多く展示することで、身近なものとして捉えられるよう工夫した。</li> <li>企画展による新たな価値の創造 <ul style="list-style-type: none"> <li>：企画展Ⅰ「井出先生の写真館」</li> </ul> </li> <li>開催期間中のアンケート等による情報収集と随時の展示更新にから生まれる双方向性のある展示の実現 <ul style="list-style-type: none"> <li>：企画展Ⅱ「袖ヶ浦の外来種」</li> </ul> </li> <li>イラスト等を多用し、低年齢の子どもたちにもわかりやすい展示の実現</li> <li>展示パネルは文字の大きさや読みやすさを重視し、記載内容もわかりやすくなるよう心掛けた。</li> <li>企画展チラシ・図録について、利用者に対し、展示内容理解の補助となるよう意識して作成した。</li> <li>常設展示は、企画展の成果を元に、利用者の共感を得やすいものを選定して展示替えした。</li> <li>入館者数 3館合計38,812人 (内訳：本館26,661人、アクアラインなるほど館649人、旧進藤家住宅11,502人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展Ⅰは、展示した写真についての情報をアンケートにより収集し、それにより得た情報を素早く展示に還元することで、また新たな情報の共有につながるとともに、リピーターの獲得にもつながった。内容も、地域住民にとって身近なテーマであり、多くの共感を得た。</li> <li>企画展Ⅱは、ポスター・チラシの動物イラストが好評で、子どもたちにも理解しやすく、多くの家族連れの来館者を得た。内容もはく製や標本を多く用いてわかりやすくする工夫がされていた。</li> </ul> <p><b>【目標値】企画展・特別展に関連した刊行物の刊行</b> 目標値2件:実績値1.5件</p> <p>※企画展Ⅰは図録の作成はしなかったが、理解の補助になるように関連年表を印刷して配布したため、0.5とした。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者が資料に関心を持ち、身近なものとして捉えるためには、まず職員それぞれが、収集資料をはじめとした地域資料について精査を続け、袖ヶ浦の魅力ある事象について見識を深める必要がある。</li> <li>資料を魅力的に見せるために、展示方法についても研究する必要がある。</li> <li>昭和時代など、利用者の共感を得やすい時期の資料はさらに展示を増やす必要がある。</li> <li>家族連れに人気の生物関係展示について、常設展示にも取り入れることを検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が袖ヶ浦について知る・研究する時間をさらに多く設けるように努める。</li> <li>他館の展示の見学や最新の展示用品の情報を収集する等、展示手法についての調査研究を進める。</li> <li>昭和から平成といった近い時代の資料を多く収集し、親子や家族で楽しみ、世代間交流に貢献できる展示をさらに充実させるように努める。</li> <li>常設展示への生物関係展示の導入の検討。</li> </ul>

活動目標	あるべき姿	令和5年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(3) 学習・知的 交流の拠 点になる 一展示更 新と情報 発信	そではく35の展望⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資料を有効活用し、企画展を開催した。 ：企画展2回</li> <li>企画展入館者数14,674人 ：内訳 R4企画展Ⅲ2,493人 (4月2日～4月18日) 企画展Ⅰ8,198人 企画展Ⅱ6,476人</li> <li>企画展・常設展示での収蔵資料活用 3件</li> <li>ロビー展示 3回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資料を有効活用した企画展やロビー展示の開催により、袖ヶ浦市の新たな側面や魅力を市民にアピールし、学習意欲の向上にも貢献できた。</li> <li>自然系の企画展の開催により、新たなユーザーを開拓できた。</li> <li>関東大震災100年や新指定文化財等、時節や最先端の話題に対応したロビー展示を開催した。</li> </ul> <p>【目標値】企画展・特別展の見学者数 目標値1回の見学者平均5000人 実績値 7,337人(R4企画展Ⅲ除く)</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の世代交代が進行しており、市民の学習意欲にグローバルに対応できる職員の育成が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の多岐にわたる学習意欲に応え続けるためには、職員の調査研究及び学習の時間を多く設ける必要があり、特別展・企画展の準備期間は他の業務との重複について考慮するようにする。</li> <li>資料調査の時間を意識的に設けるようにする。</li> </ul>
	そではく35の展望⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員自主企画展示を行った(4回) ：七夕展示 ：旧進藤家住宅ひな人形展示 ：旧進藤家住宅五月人形展示 ：秋の万葉こどもまつり「みんなでお絵かき」作品展</li> <li>企画展「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」の開催に向けて、企画展ワーキンググループを結成し、調査・研究等の活動を行った。</li> <li>友の会盆栽の会による盆栽展を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員自らが展示を企画することで学習意欲の向上を促し、成果を上げることができた。</li> <li>企画展ワーキンググループは、チームや個人で調査研究を重ね、企画展の開催につなげることができた。</li> <li>盆栽展は、多くの方が来館し、旧進藤家住宅の活用と周知にも成果をあげることができた。</li> </ul> <p>【目標値】市民学芸員自主企画展実施回数 目標値5回:実績値4回</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示・企画ができる市民学芸員に限られ、負担も大きいものとなっている。</li> <li>盆栽の会以外の友の会会員もミュージアムフェスティバル以外に展示の機会を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員全体会議や定例会などで今後の企画展等について検討する。</li> <li>市民学芸員養成講座の内容を充実させ、企画・展示ができる市民学芸員を育成するとともに現在在籍している市民学芸員の育成にも力を入れる。</li> <li>ワーキンググループは今後も必要に応じて結成し、活動する。</li> <li>市民学芸員・友の会員の研究成果発表の場はさらに充実させる。</li> </ul>
	そではく35の展望⑭	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての来館者が展示を理解できるように、QRコード等の活用により、補足的な説明手段の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>万葉植物園の歌碑にQRコードを設置した。(20種)</li> </ul> <p>【目標値】QRコードの活用 目標値1件:実績値1件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示やホームページに多言語対応ができていない。</li> <li>館内のインターネット等の電波状況が悪い。</li> <li>外国人が展示を理解できるように展示解説などの多言語化が進んでいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多言語化については、アプリやカメラの翻訳機能等を活用し、早急に対応する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑮	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミュージアム・フェスティバルを開催した。 ：ミュージアムフェスティバル入場者数 1,639人</li> <li>講座「袖ヶ浦学」 5回開催</li> <li>公民館等他の施設と連携し、講座での団体利用を促進した。 5回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>袖ヶ浦学は地域資料を多く活用し、関東大震災100年に関連した回をはじめ、時節にあったものや話題性のある内容などで、多くの参加者を得た。</li> <li>これまで、公民館は利用するが博物館へは来ることがなかった公民館講座生を新たな利用者として獲得することができた。</li> </ul> <p>【目標値】ミュージアムフェスティバルのボランティアのべ人数 目標値135人:実績値 198人</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館に全く来ない人へのアピール方法について、さらに検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報・周知の方法について、さまざまな媒体を活用できるようにする。</li> <li>公民館等との連携をさらに深め、新たな利用者の獲得につなげる。</li> </ul>
	そではく35の展望⑯	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展等でアンケート調査を実施して要望の把握に努め、公民館や他地域の博物館等と情報共有を行い、市民にどのような講座が求められているのかりサーチした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートにより、個人が考えている要望とそのバックグラウンドを合わせて調査し、傾向と対策を分析することができた。</li> <li>他の社会教育施設の状況を知ること、博物館には来ない人の傾向と要望を推測することができた。</li> </ul> <p>【目標値】講座でのアンケート調査件数 目標値3回:実績値2回</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート等に記された市民ニーズを丸呑みするのではなく、それを活用してさらに上の講座等を目指すには、対応する職員にも高い経験値が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートは引き続き実施する。</li> <li>公民館・図書館等、他の社会教育施設の講座や他の博物館の講座に参加するなど実体験に基づいた調査をする。</li> <li>常に市民よりも上の知識を持てるように、職員が学ぶ意識を持ち続ける。</li> </ul>

活動目標	あるべき姿	令和5年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(3) 学習・知的交流の拠点になる一展示更新と情報発信	そではく35の展望⑰ 8.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ・ツイッターを利用したPR活動や情報提供。 ホームページ更新回数 25回</li> <li>・新聞、地域紙、ラジオ等の媒体を活用した情報提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種のメディアにより多くの人にPRすることができた。</li> </ul> <b>【目標値】ホームページ更新件数</b> 目標値25回:実績値 25回	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR活動や普及事業などにより市内での認知度は高まったが、利用したことのない市民も未だ多い。</li> <li>・SNS等に関する職員の知識が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞・雑誌・テレビ等、多くの市民が目に触れるようなメディアで取り上げられるために、積極的なPR活動を進める。</li> <li>・来館した人々が利用したメディア等について分析を行う。</li> <li>・SNS等の調査研究を行い、効果的な活用方法を検討する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑱ 9.図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小学校の物流ネットワークによる蔵書や資料などの貸出サービス</li> <li>・図書室での図書閲覧やコピーサービス</li> <li>・図書室を利用しやすいように整備した。 図書室利用件数 14件</li> <li>・博物館の蔵書情報を図書館や総合教育センターに提供した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流ネットワークによる資料の貸出の体制を利用できた。</li> <li>・図書室や学芸員室の図書について、市民学芸員や友の会員等に貸出を行い、活用を促進した。</li> <li>・博物館の蔵書情報を図書館や総合教育センターと共有することができた。</li> </ul> <b>【目標値】図書室利用件数</b> 目標値10件:実績値14件	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流ネットワークについては利用が促進されていない。</li> <li>・図書室が常時開館していないので、利用しにくく、利用が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館司書と直接情報交換するなど、学校教育のニーズを把握するように努め、物流ネットワークを活用できる体制を整える。</li> <li>・図書室常時開室について検討、計画する。</li> </ul>
	そではく35の展望⑲ 10.利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種問い合わせに応じるとともに、レファレンス情報を記録し、共有した。 レファレンス件数48件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問い合わせについて随時対応することで、利用者の知的欲求に応えることができた。</li> <li>・利用者からの質問・相談について情報を共有することで、より専門性の高い職員に引き継ぐことができた。</li> </ul> <b>【目標値】レファレンス件数</b> 目標値45件:実績値48件	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問・相談の内容によっては、対応できる職員に限られる。</li> <li>・上総掘りは技術についての問い合わせが多いが、後継者の育成の遅れや、民俗学専門の学芸員が不在のため、対応が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易な質問については誰でも答えられるように、説明シート等の充実をはかる必要がある。</li> <li>・上総掘りの高度な問い合わせにも対応できる民俗学専門の学芸員を配置する必要がある。</li> </ul>
	そではく35の展望⑳ 11.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民学芸員や友の会員は、研修室・体験学習室・図書室等を活用し、グループ活動を行った。 活動件数 132回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民学芸員・友の会員は各自の活動に博物館の施設を活用することができた。</li> </ul> <b>【目標値】市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数</b> 目標値130件:実績値132件	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般の利用者同士が交流できるスペースがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者同士が交流できるスペースの設置について、検討する必要がある。</li> </ul>
(4) 地域のつながりを活かす一市民参画と地域連携一	そではく35の展望㉑ 1.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民学芸員や友の会の活動を通して、博物館事業に市民が参画し、体験学習の支援やイベントでの役割を担っている。 ：市民学芸員 43名 ：博物館友の会 59名 (令和6年3月末現在)</li> <li>・市民学芸員養成講座の通年開催 11回</li> <li>・上総掘り技術伝承研究会との協働による上総掘り講演会の実施と記録映像撮影、技術伝承用記録誌の刊行 ：上総掘り技術伝承研究会員 16名 ：上総掘り講演会 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民学芸員や友の会会員などの地域の人々が博物館活動に参画することで、事業運営の原動力となっている。</li> <li>・市民学芸員養成講座の通年開催により、新たに7名が市民学芸員となった。</li> <li>・上総掘りは記録映像と技術伝承用記録誌により、上総掘り技術の担い手育成の基盤が整った。</li> <li>・市民学芸員・友の会といった形にこだわらず、博物館活動に協力してくれる市民も存在する。</li> </ul> <b>【目標値】市民学芸員・友の会の会員数</b> 目標値105人:実績値106人	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加する市民学芸員・友の会員の固定化や高齢化が進んでいる。</li> <li>・新規参加者についても、継続のための工夫が必要。</li> <li>・市民学芸員・友の会といった形にこだわらない協力者との新たな協力体制の確立。</li> <li>・市民学芸員と友の会員の交流が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな媒体により活動についての情報を公開し、多くの人々が活動に関心を持てるように促す。</li> <li>・講座や活動サポートにより、継続できるよう支援する。</li> <li>・市民学芸員養成講座は引き続き通年で開催する。</li> <li>・市民学芸員と友の会合同の研修会等を企画する。</li> </ul>

活動目標	あるべき姿	令和5年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(4) 地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー	そではく35の展望⑳	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展、ロビー展及び関連事業の実施</li> <li>市民学芸員・友の会との自主企画展の実施 10回</li> <li>友の会主催「もっと知りたい講座」開催</li> <li>博物館を拠点として活動している団体による地域貢献               <ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員郷土を学ぶ会 公民館講座等への出前講座</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展や講座などの開催により、学びの拠点となった。</li> <li>友の会・市民学芸員の活動により地域の団体との連携を深めることができた。</li> <li>市民学芸員の活動も含め、公民館講座等で博物館の研究成果を発表することが出来た。直近の公民館である根形公民館とは相互協力できた。</li> </ul> <p>【目標値】市民学芸員・友の会自主事業実施回数 目標値5回:実績値10回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館を利用する団体相互の連携については、あまり進んでいない。</li> <li>公民館講座への出前は増えているが、公民館サークル等による自主的な博物館利用は確認できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館を利用する機関・地域・団体等団士の連携を博物館がサポートする。</li> <li>根形地区については、博物館を中心に袖ヶ浦公園・根形公民館といった施設が一体化して、学びと楽しみの拠点となれるようにイメージを構築する。</li> <li>公民館・図書館との連携をさらに促進する。</li> </ul>
	そではく35の展望㉑	<ul style="list-style-type: none"> <li>根形公民館との連携を継続して行った。</li> <li>市民学芸員郷土を学ぶ会作成の「袖ヶ浦散策」や「行ってみようマップ」を活用し、博学連携や公民館講座で地域散策を行った。</li> <li>夏の単発イベントや公民館講座との連携で、袖ヶ浦公園を活用した。</li> <li>公民館との連携の促進               <ul style="list-style-type: none"> <li>根形公民館地域再発見講座等、公民館講座への出前講座</li> <li>協力した公民館講座の件数：10件</li> <li>根形公民館報 原稿提供1件</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>根形公民館地域再発見講座で博物館を多く利用し、相互に交流ができた。</li> <li>博物館が歴史や文化び拠点であること、情報を集積させている施設であることを印象付けることができた。</li> <li>市民会館や木更津市の公民館等、公民館の講座等での利用が拡大し、博物館の活動について、さらに多くの市民に周知することができた。</li> </ul> <p>【目標値】公民館講座への協力・講師派遣 目標値3件:実績値10件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携による袖ヶ浦公園などを活用した取り組み成果を発信できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民学芸員郷土を学ぶ会が作成した「袖ヶ浦散策」を活用し、各地域との連携を深める。</li> <li>地域連携による成果を発信できるように努める。</li> </ul>
	そではく35の展望㉒	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校3年生、6年生の校外学習支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>13校（3年生7校、6年生6校）</li> <li>ボランティア参加延べ人数 51人</li> </ul> </li> <li>実物資料、教材の貸し出し 3件</li> <li>教育カリキュラムに応じたアウトリーチの実施 5件（小学校4・中学校1）</li> <li>小中学生の調べる学習への支援 14件</li> <li>教員経験者を社会教育指導員として配置し、博学連携事業に多く参加してもらった。</li> <li>山野貝塚体験学習プログラムの構築と実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館が学びの場として市内の子どもたちに利用され、教科書では得ることのできない実物資料や、より深い知識を獲得する教育環境を提供し、活用された。</li> <li>教員経験者が博物館職員として博学連携に関わることで、連携が密になり、学校と博物館の距離が近くなった。</li> <li>山野貝塚体験学習プログラムの構築により、中学校へのアピールができた。</li> </ul> <p>【目標値】校外学習支援ボランティア(市民学芸員等) 目標値延べ55人:実績値延べ51人</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の影響により一部の体験メニューが実施できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまなシチュエーションを想定し、アウトリーチの拡大や新たなプログラムの開発等について、さらなる検討が必要。</li> <li>博物館側も指導要領や教材等の研究を行い、学校側の実情について理解を深める。</li> </ul>
	そではく35の展望㉓	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内外施設や機関へ講師等の派遣、講座等への協力 10件（公民館講座含む）</li> <li>君津地方公立博物館協議会へ参加               <ul style="list-style-type: none"> <li>研修会、合同調査など広域地域連携の実現を図った。</li> </ul> </li> <li>全国博物館大会への協力と参加</li> <li>千葉県博物館協会への参加</li> <li>千葉県史料保存活用連絡協議会への参加</li> <li>NPOとの連携。               <ul style="list-style-type: none"> <li>情報交換（しいの森里山会、盤洲干潟を守る会）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育機関や他市博物館と連携を深めることができた。</li> <li>全国博物館大会では、実行委員やスタッフとして協力し、関連巡回展にも会場として協力した。</li> <li>日本博物館協会から依頼を受け、博物館研究にて博物館事業の紹介をすることができた。</li> <li>千葉県史料保存活用連絡協議会の会報で博物館事業の紹介をすることができた。</li> </ul> <p>【目標値】他団体との連携事業の実施回数 目標値3回:実績値3回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に地域の企業やNPOとの連携が図れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業やNPO等へ博物館の活用できる施設や資料についてアピールする機会を設ける。</li> </ul>

活動目標	あるべき姿	令和5年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(5) 安心・安全な施設にする一施設の維持管理と来館者への配慮一	そではく35の展望②⑥		・経年劣化や設備の故障等については、それぞれ予算の範囲内で対応し、不具合を改善した。 ・博物館施設や設備の老朽化や不具合について調査を行い、修繕・改修の優先順位を把握し、対応について検討した。 <b>【目標値】施設の安全点検の実施回数 目標値12回(月1回):実績値12回</b>	◎	・年々、施設の老朽化が進んでおり、不具合が発生する。 ・不具合の発生に伴い、事務の対応に時間を有する。 ・改修計画が立てられていない。	・修繕等が必要な不具合箇所については関係部局と協議を行う。 ・展示リニューアルも含めた大規模改修工事が実施できるよう庁内で調整をはかる。
	そではく35の展望②⑦	・高齢者施設の団体受入れを積極的に進めた。49件(534人)	・高齢者施設からは2階昭和のくらしコーナーが好評であり、リピーターも多く獲得した。 <b>【目標値】福祉施設見学受け入れ件数 目標値30件:実績値 49件</b>	◎	・館全体的なユニバーサルデザイン計画がなく、施設改修については実施できていないため、以前からの施設的な課題は解消されていない。 ・外国人でも見学できる環境(多言語化対応)が整備されていない。	・ユニバーサルデザイン設計を進めている博物館等の先進事例を調査し、施設改修計画に合わせて検討していく必要がある。 ・外国人への環境整備については、可能なことから対応を進める。 ・利用者からの要望をリサーチする必要がある。
	そではく35の展望②⑧	・本館において火災を想定した避難訓練・消火訓練を実施した。1回 ・旧進藤家住宅において避難訓練・消火訓練を実施した。1回	・避難訓練・消火訓練により、災害時にとるべき行動や消火活動等を確認することができた。 <b>【目標値】防災訓練の実施回数 目標値年2回(本館・旧進藤家住宅):実績値2回(本館・旧進藤家住宅)</b>	◎	・地震を想定した避難訓練も実施する必要がある。	・さまざまな災害を想定した避難訓練を計画的に実施していく。
(6) 博物館の社会的役割を意識する一地域への貢献一	そではく35の展望②⑨	・夏の単発イベント「ジュニア学芸員講座」の袖ヶ浦公園周辺での実施 ・袖ヶ浦公園主催事業への協力 ・市原歴史博物館との調査研究協力(出羽三山信仰関係等で相互に情報交換)	・袖ヶ浦公園内にあるという立地を生かした企画や袖ヶ浦公園管理組合のほか、関係団体と連携した取り組みを実施することにより、歴史系の事業だけではなく、自然系事業など魅力ある事業展開を行うことができた。 <b>【目標値】袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数 目標値1回:実績値2回</b>	◎	・大学や研究機関と連携した事業展開が図れていない。 ・袖ヶ浦公園については、さらなる活用が考えられる。 ・市原歴史博物館とは、今後更なる協力体制の強化が求められる。	・特別展等の成果を元に、大学や研究機関との連携について検討する。 ・袖ヶ浦公園を活用した魅力ある企画を検討する。 ・他機関との連携について、先進事例を調査する。 ・市原歴史博物館との連携を進める。
	そではく35の展望②⑩	・市民学芸員の地域の歴史や文化財の調査への活動支援 地域文化財データベース配布と自主企画展、関連講座開催の支援 ・市民学芸員養成講座による、調査のできるボランティアを育成 ・市民学芸員との協働による企画展へ向けた調査研究 ・フォローアップ研修による市民学芸員の長期的な育成 2回 ・山野貝塚ボランティア育成の協力(生涯学習課事業)	・市民とともに調査を行うことにより、市民への文化財保護の意識向上につながった。 ・市民学芸員の活動に調査成果公開の場を設けることで、より大きな達成感を得ることができた。 ・研修に参加することで市民学芸員や山野貝塚ボランティアの向学心を刺激することができた。 <b>【目標値】市民学芸員養成講座実施回数 目標値10回:実績値11回</b>	◎	・博物館と市民が一体となった調査研究活動が行われていない。	・文化財保護活動に対して市民が積極的に参画できるような講座を企画し、博物館とともに研究できるような人材を育成する。 ・研究発表しやすい環境を整える。 ・企画展開催や報告書刊行など、調査の成果として具体的な目標を掲げる。
	そではく35の展望②⑪	・高齢者との交流、回想法の試み : 高齢者施設の見学受入れ : 公民館高齢者学級の見学等受入れ ・企画展・常設展による高齢者等の生きがいの創出	・展示見学を通し、高齢者の心身の健康維持に貢献することができた。 ・企画展I「井出先生の写真館」は、高齢者層にとって身近な故人をしのぶ機会となり、博物館も情報を得ることができた。 <b>【目標値】高齢者学級・シニアグループへの協力回数 目標値1回:実績値1回</b>	◎	・これまで単発的な活動しかできていない。 ・公民館高齢者学級等との連携がなされていない。 ・戦争体験等のある高齢者が年々少なくなっている。	・日常的に高齢者が集まり、意見交換できる場を整える。 ・公民館講座との連携や屋外施設を活用した健康講座の実現に向けた情報提供。 ・戦争体験等についての聞き取りは機会を設けて引き続き行う。

活動目標	あるべき姿	令和5年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(7)博物館 職員の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加ー	そではく35の展望⑳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国博物館長会議への出席</li> <li>・文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会・会議への出席</li> <li>・日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会・会議への出席</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国博物館長会議に参加し、最新の博物館事情を収集して、博物館運営の参考とすることができた。</li> <li>・関東地区博物館協会・千葉県史料保存活用連絡協議会の理事を務め、他館の館長と情報を共有することができた。</li> </ul> <p>【目標値】国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数 目標値1回:実績値1回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠方で開催される会議・研修会も多く、日本博物館協会・関東地区博物館協会以外が主催する研修会の情報については伝わりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催についての情報を収集し、遠方でも必要な会議等には出席できるようにする。</li> <li>・オンライン会議には積極的に参加する。</li> </ul>
	そではく35の展望㉑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会等への出席</li> <li>・日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会等への出席</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用連絡協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会等に参加し、知見を深めることができた。</li> <li>・千葉県博物館協会の地域振興委員を務め、他館の職員との交流し情報を共有することができた。</li> </ul> <p>【目標値】国・県等が主催する研修に出席し、専門的知識を獲得する。 目標値3回:実績値7回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠方で開催される会議・研修会も多く、日本博物館協会・関東地区博物館協会以外が主催する研修会の情報については伝わりにくい。</li> <li>・研修等で得た人脈を活用し、研修後も情報交換等で交流を続けることが望ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催についての情報を収集し、遠方でも必要な研修会には出席できるようにする。</li> <li>・オンライン開催には積極的に参加する。</li> </ul>
	そではく35の展望㉒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本考古学協会等、研究機関が主催する研修会等への参加</li> <li>・君津地方社会教育研究会への参加</li> <li>・『袖ヶ浦市史研究』等への寄稿</li> <li>・他機関から依頼された講座での講演。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・君津地方社会教育研究会主催の研修会に参加し、知見を深めるとともに、他市職員と交流し情報を共有することができた。</li> <li>・根形公民館地域再発見講座をはじめ、他機関で講演することで、博物館活動の一端を周知させることができた。</li> </ul> <p>【目標値】他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数 目標値1回:実績値1回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で参加した研究会等の館内での情報共有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、交流や発表の機会があれば活用し、有益な情報があれば館内で共有する。</li> </ul>
	そではく35の展望㉓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県博物館協会・君津地方公立博物館協議会・君津地方社会教育研究会主催の研修会への事務職員の参加</li> <li>・その他研修会への事務職員の参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会等に参加し、そこで得た情報を館内で周知し、職員間で情報共有することができた。</li> </ul> <p>【目標値】研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数。 目標値1回:実績値1回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務職員の研修の機会が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望する研修会には出席できるようにする。</li> </ul>

		内容等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
博物館協議会		年3回開催				第1回				第2回			第3回	
博物館運営事業														
教育普及事業	ミュージアム・フェスティバル	年1回開催	18日(木)第2回実行委員会	16日(木)第3回実行委員会	8日(土)・9日(日)									
	講座 袖ヶ浦学	年5回開催	21日(日)第172回袖ヶ浦学(友の会共催)「密着！ちばの生物多様性」					21日(土)第173回袖ヶ浦学「袖ヶ浦の石造物」			14日(土)第174回袖ヶ浦学「チバニアンと房総半島と袖ヶ浦」	18日(土)または19日(日)第175回袖ヶ浦学「袖ヶ浦の外来種(仮)」	15日(土)第176回袖ヶ浦学「野鳥観察会」	
	博物館学芸員実習	7月23日～8月2日(10日間) 5名募集	・大学からの実習依頼文 ・回答			実習予定表作成・送付 7月23日(火)～8月2日(金)(10日間) 博物館実習	7月23日(火)～8月2日(金)(10日間) 博物館実習 大学宛評価表送付					令和7年度要項作成・HP掲載		
	その他			11日(土)県民の日事業		27日(土)夏休みジュニア学芸員体験			29日(日)考古学講座「袖ヶ浦から出土した弥生時代の青銅器」 28日(土)盤洲干潟観察会	13日(日)考古学講座 企画展Ⅱ「古墳大辞典」関連講座連携事業	30日(土)考古学講座「企画展Ⅱ『古墳大辞典』関連講座連携事業」	22日(日)考古学講座「綾瀬市神崎遺跡・神崎遺跡公園、茅ヶ崎市博物館見学」	25日(土)考古学講座「発掘された袖ヶ浦の弥生時代」	
博学連携事業	校外学習支援等	体験学習支援 学習相談対応 資料・図書貸出		← 小学校6年生 校外学習								← 小学校3年生 校外学習		
	出前授業・展示	アウトリーチ 出前展示の実施												
	その他													
展示更新推進事業	特別展・企画展	企画展年2回開催		企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」 5月3日(金)～7月15日(日) 関連事業6月15日(土)、7月6日(土)、 展示解説会:5月4日(土)、6月8日(土)、7月13日(土)					企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典」 10月5日(土)～12月8日(日) 関連講座11/30(土)					
	トピックス展 ミニ展示											ロビー展示「日本の郷土風」		
	旧進藤家住宅		内房総アートフェス 3月23日(土)～5月26日(日) ※アクアラインなるほど館にも展示 袖ヶ浦公園で上総掘り関連展示		盆栽展(ミュージアムフェスティバル)					盆栽展			ひな人形展示(旧進藤家住宅)	
地域資料管理活用事業	万葉植物園	屋外施設の活用												
	資料管理活用	・収蔵資料保存管理活用 ・資料燻蒸 ・環境調査委託				環境調査(1回目)			環境調査(2回目)			資料燻蒸		
	史料修復 奈良輪漁協				史料修復委託執行伺い・契約				史料修復成果品納品					
	『市史研究』第22号	編集・刊行												
市民学芸員協働事業	市民学芸員活動	体験学習支援 自主企画展企画ほか ・万葉グループ第3土曜日午前活動(万葉植物園)		22日(水)フォローアップ研修(JAXA筑波宇宙センター、産総研地質標本館) ※友の会と合同実施予定	8日(土)・9日(日)ミュージアム・フェスティバル						お飾りづくり		22日(土)市民学芸員フォローアップ研修(市民学芸員養成講座と合同)	ひな人形展示(旧進藤家住宅)
	市民学芸員養成講座	年間11回・広報で募集	20日(土)市民学芸員養成講座①オリエンテーション	18日(土)市民学芸員養成講座②小学校6年生体験学習スタッフ養成講座	22日(土)市民学芸員養成講座③博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」	20日(土)市民学芸員養成講座④IPMIについて学ぼう(博物館実習と合同)	24日(土)市民学芸員養成講座⑤そではく大解剖！そではく辛口探点会	14日(土)市民学芸員養成講座⑥博物館の調査研究とフィールドワークの心得	19日(土)市民学芸員養成講座⑦フィールドワーク実習	9日(土)市民学芸員養成講座⑧よその博物館を見に行こう(バス移動講座)	14日(土)市民学芸員養成講座⑨小学校3年生体験学習スタッフ養成講座	18日(土)市民学芸員養成講座⑩資料整理の基礎	22日(土)市民学芸員養成講座⑪修了式・記念講演会(フォローアップ研修と合同)	
施設管理事業	施設の修繕・工事等 本館浄化槽チェックカープレート交換修繕													
友の会 8グループ(仏像を学ぶ会、何でも有り会、土器作りの会、風の会、古文書いろうの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画葉月の会)活動	協働事業:自然と歴史の散策会(年2回)ほか 第2・4金曜日古文書いろうの会 毎週水曜日機織りの会・葉月の会 第3土曜日午後活動(体験学習室)	総会		22日(水)第1回自然と歴史の散策会 ※市民学芸員フォローアップ研修と合同実施予定	8日(土)・9日(日)ミュージアム・フェスティバル	19日(金)第1回役員会				第2回自然と歴史の散策会		新春風揚げ会	第2回役員会	
上総掘り技術伝承研究会	定例活動日 毎週日曜日・又は土曜日	総会				8日(土)・9日(日)ミュージアム・フェスティバル								
休館日			1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)	7日(火)・13日(月)・20日(月)・27日(月)	3日(月)・10日(月)・17日(月)・24日(月)	1日(月)・8日(月)・16日(火)・22日(月)・29日(月)	5日(月)・13日(火)・19日(月)・26日(月)	2日(月)・9日(月)・17日(火)・24日(火)・30日(月)	7日(月)・15日(火)・21日(月)・28日(月)	5日(火)・11日(月)・18日(月)・25日(月)	2日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)・26日(木)～31日(火)	1日(水)～4日(土)・6日(月)・14日(火)・20日(月)・27日(月)	3日(月)・10日(月)・12日(水)・17日(月)・25日(火)	3日(月)・10日(月)・17日(月)・21日(金)・24日(月)・31日(月)